

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	科学的思考の基盤	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	ロジカルシンキング	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	園田 浩之	実務経験と その関連資格	大学講師として社会学の教育と研究に従事		
《科目全体のねらい・到達目標》 論理は、「書くこと」「読むこと」、そして「話すこと」「聞くこと」を意味のあるものにしてくれる基礎（支えとなるもの）です。それはまた、自分と他者（自分でないもの）とをつなぐために不可欠なものでもあります。この講義は、そうした「論理の力」を皆さんひとりひとりが自分の味方にする（身につけ、使えるようになる）ことを目的としています。 ①言葉に対する感度の向上：意見や考えを適切に「伝える」「受け取る」力を養うことができる（これは、他者と向き合うさいの感受性をより繊細なものにすることにもつながります）。 ②分析力の向上：ふだん何気なくやり過ごしていること（とくに言葉のやりとりに関すること）の前で立ち止まり、そこにある複雑さ・微妙さについて、ふだんよりも高い解像度で理解することができる。 ③問題発見・問題解決能力の向上：論理的に「読み」「書き」する力を養うことで、それをさまざまな問題の発見と解決に活かすことができる。					
《事前学習内容》 講義ごとに、その回の配布資料やノート・メモをていねいに読み直し、内容をふりかえること（課題のあるなしにかかわらず）。それが、次の講義へのもっとも有効な事前学習にもなります。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上をはかることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	イントロダクション：この講義への招待と導入			講義	参考図書・資料
第2回	そもそもの話：論理ってなに？なぜ論理？／論理の一手手前から／論理的で「ない」ものとはなにか？			講義	資料
第3回	はじめの一步：言葉のつながりに目をこらす（耳をすます）			講義	資料
第4回	つながりを理解する／つながりで理解する：接続表現がひらく世界①			講義	資料
第5回	つなげることで生まれるもの：接続表現がひらく世界②			講義	資料
第6回	つなげることのレッスン			講義	資料
第7回	論理のかたち：論証（reasoning）ってなに？			講義	資料
第8回	論理のかたちをつかまえる①：なぜそういえるのか？／キズのある論証			講義	資料
第9回	論理のかたちをつかまえる②：要約してみよう（でも、「なに」を「どうしたら」いいか？）			講義	資料
第10回	論理的に書き・読むために①：論証の単位／パラグラフとはなにか？			講義	資料
第11回	論理的に書き・読むために②：パラグラフ・ライティングのすすめ			講義	資料
第12回	論理的に書き・読むために③：書くことと読むこと（話すことと聞くこと）			講義	資料
第13回	コミュニケーションとしての論理①：問いかける・答える（応える）・反論する			講義	資料
第14回	コミュニケーションとしての論理②：論理は「あいだ」に生まれる／モノローグ（独り言）を抜け出そう			講義	資料
第15回	論理を味方にする：「みんな一緒」と「人それぞれ」を超えて			講義	資料
《成績評価の方法と基準》 終講試験またはレポート80%、講義への参加状況（講義中のやりとりや課題など）20%					
《受講上の注意》 基本的には講義の形で進めていきますが、その中で、実際に書いたり・読んだりすることがあります。その経験（「やってみるごと」の積み重ね）を大切にしてもらえたらと思います。					

《使用教材（教科書）及び参考図書》

教科書（テキスト）はありません。こちらで資料（スライド・配布資料）を準備して、それを使いながら講義を進めていきます。

（参考資料）福澤一吉『看護学生が身につけたい 論理的に書く・読むスキル』、医学書院、2018年
その他、講義の進行に応じて、さらに知りたい・考えてみたいという人たちの手がかりになるものを紹介していけたらと思います。

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	科学的思考の基盤	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	情報科学(看護統計学)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	福島 武	実務経験と その関連資格	大牟田高校 教諭 高等学校教諭一種免許 情報		
《科目全体のねらい・到達目標》 コンピュータの操作の習熟を図り、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができる。 また、情報処理スキルの向上や情報倫理、情報リテラシーなどを理解できる。 ①医療の情報化の基本的な概念を理解することができる。 ②文書を作成する際にソフトや文書の特性を考慮して創意工夫を行う。 ③簡単な統計計算とそれに関わる関数を使って、グラフなどを作成することができる。					
《事前学習内容》 現在のネット社会のあり方を自らの視点で考える。					
《DPとの関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	情報化による医療の変化(j情報の定義と特徴) 医療とコンピュータ・情報と情報処理 コンピュータの概要・しくみ・ネットワーク			講義	教科書
第2回	ICT講義の意義を理解し、windows操作とタイピングの基礎を身につける。 コンピューターリテラシーとセキュリティ			講義	教科書
第3回	インターネットの情報を理解し、かつ安全にルールに従った インターネットの利用ができる。			講義・演習	資料
第4回	Word、Excelの基本を学び必要な操作ができる			講義・演習	資料
第5回	表計算ソフトウェアの操作・グラフの作成			講義	教科書
第6回	表計算ソフトウェアの操作・グラフの作成			講義・演習	教科書
第7回	統計処理の概要(核率・誤差・データの種類)			講義・演習	教科書
第8回	記述統計(平均値・中央値・分散・標準偏差)			講義・演習	教科書
第9回	記述統計(正規分布)			講義・演習 ポストテスト	教科書
第10回	Excelによる基本統計解析			講義・演習	教科書
第11回	SPSSによる基本統計解析			講義・演習 課題	教科書
第12回	仮説検定			講義・演習	教科書
第13回	仮説検定			講義・演習	教科書
第14回	仮説検定、まとめ			講義・演習	教科書
第15回	警察の講義(ネット犯罪について)			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 自宅にインターネットにつながったPCがあれば、自習ができます。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 別巻 看護情報学 医学書院 基礎分野 統計学 医学書院 医療・看護系のための情報リテラシー					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	医療倫理	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	藤丸 由美子	実務経験と その関連資格	白川病院 看護部長		
《科目全体のねらい・到達目標》 人間の生命を広い視点でとらえ、医療における責任と倫理的態度を身につける。 人間観、人生観、死生観についての考え方を豊かにし、生命に携わる援助者としての在り方を考察する。 ①看護の現場にある倫理的課題に「気づく」ことができる。 ②自分の意見に根拠をもち発言する訓練と分析能力を身につける。					
《事前学習内容》 ボランティア・病気体験とその生き様、臨床倫理的問題から、人を支えることや社会のあり方を考える。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備 考
第1回	【第1部：生命倫理】看護倫理を学ぶために 第1章 倫理学の基本的な考え方			講義	パワーポイント
第2回	第2章 生命倫理			講義	パワーポイント
第3回	第3章 生殖の生命倫理			講義	パワーポイント
第4回	第4章 死の生命倫理			講義	パワーポイント
第5回	第5章 先端医療と制度をめぐる生命倫理			講義	パワーポイント
第6回	【第2部：看護論理】 第6章 看護倫理とは何か			講義	パワーポイント
第7回	第7章 専門職の倫理			講義	パワーポイント
第8回	第8章 倫理的課題へのアプローチ 看護実践のなかでの倫理的課題			講義	パワーポイント
第9回	第8章 倫理的課題へのアプローチ ツールの活用			講義	パワーポイント
第10回	【第3部：事例分析】 4分割、ナラティブ 第10章 領域別看護における倫理的課題とケーススタディ (小児看護・精神看護)			ディベート 資料作成	パワーポイント ツール資料
第11回	【第3部：事例分析】 4分割とナラティブ併用 第10章 領域別看護における倫理的課題とケーススタディ (母性看護・老年看護)			ディベート 資料作成	パワーポイント ツール資料
第12回	【第3部：事例分析】 4分割とナラティブ併用 第10章 領域別看護における倫理的課題とケーススタディ (終末期看護、その他の事例)			ディベート 資料作成	パワーポイント ツール資料
第13回	第9章 看護研究の倫理			講義	パワーポイント
第14回	医療倫理に関する宣言・綱領			講義	パワーポイント
第15回	まとめ			講義	パワーポイント
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	人間関係論	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	森田 智	実務経験と その関連資格	大牟田保養院 臨床心理士		
《科目全体のねらい・到達目標》 自分自身を客観的に観察し、心理テクニックを用いて人間関係をスムーズに構築するスキルを身につける。 ①人格形成のためのパラダイムシフトの利用ができる。 ②患者の価値観や期待を理解し尊重できる。					
《事前学習内容》 自分の興味のある内容についての書物を講師に質問して、図書館等で調べること。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容		方法	使用教材及び備考	
第1回	オリエンテーション		講義	配布資料	
第2回	自己理解について (1)		講義・グループワーク	配布資料	
第3回	自己理解について (2)		講義・グループワーク	配布資料	
第4回	他者理解について (1)		講義・グループワーク	配布資料	
第5回	他者との協働 (1)		講義・グループワーク	配布資料	
第6回	他者との協働 (2)		講義・グループワーク	配布資料	
第7回	他者理解と協働まとめ		講義・グループワーク	配布資料	
第8回	自己理解について (3)		講義・グループワーク	配布資料	
第9回	自らとの付き合い方(1)		講義・グループワーク	配布資料	
第10回	自らとの付き合い方(2)		講義・グループワーク	配布資料	
第11回	関係性の重要性について(1)		講義・グループワーク	配布資料	
第12回	関係性の重要性について(2)		講義・グループワーク	配布資料	
第13回	自己理解についてまとめ		講義・グループワーク	配布資料	
第14回	まとめ(1)		講義・グループワーク	配布資料	
第15回	まとめ(2)		講義・グループワーク	配布資料	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 猿にそだてられた子 ゲゼル, A 著					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	社会学	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	園田 浩之	実務経験と その関連資格	大学講師として社会学の教育と研究に従事		
《科目全体のねらい・到達目標》					
社会学は、「いま・ここ・じぶん」を外から一ふだんとは違った視点で一眺めるための学問です。身のまわりの世界をたんに「あたりまえにみる」のではなく、その「あたりまえの成り立ち」にさかのぼって理解すること。それが社会学の特徴です。この講義は、皆さんに「社会的なもの見方」にふれてもらうことをつうじて、自分自身を含む「社会の中の人間」を、複眼的に、そして柔軟な発想で、理解できるようになることを目的としています。					
①社会的なもの見方を学ぶことを通じて、自己理解と他者理解を深める。					
②「社会的存在としての人間」という視点に立つことで、病気や患者や健康について複眼的に理解することができる。					
③「社会の中の医療」という観点から、医療に関わるさまざまな社会問題をその成り立ちから理解することができる。					
《事前学習内容》					
講義ごとに、その回の配布資料やノート・メモをていねいに読み直し、内容をふりかえるようにして下さい。それが、次の講義へのもっとも有効な事前学習にもなります。また、そうしたふりかえりの中で、わからないことや疑問が浮かんだら、その次の回以降(いつでも)、遠慮なく質問してみてください。					
《D P との関連》					
DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	イントロダクション：社会学への招待／講義の導入			講義	資料
第2回	社会的存在としての人間：看護と社会学／なぜ社会学？			講義	資料
第3回	「社会の中の人間」を理解する①関係の網の目／社会学的想像力			講義	資料
第4回	「社会の中の人間」を理解する②たとえば、なにが健康・病気を決めるのか？			講義	資料
第5回	他者理解のための社会学①：他者理解の大切さと難しさ／ステレオタイプ／わかつたつもりを超えて			講義	資料
第6回	他者理解のための社会学②：患者という他者／ケアの現場を社会学する			講義	資料
第7回	看護のための社会学①：「あたりまえ」の偏りを知るために			講義	資料
第8回	看護のための社会学②：ヘルスリテラシーと			講義	資料
第9回	看護のための社会学③：ズレから考える／患者-医療者の「あいだ」／疾患(disease)と病い(illness)			講義	資料
第10回	社会的現実の成り立ち①：言葉がつくる現実／予言の自己成就と社会問題			講義	資料
第11回	社会的現実の成り立ち②：医療と「意図せざる結果」			講義	資料
第12回	社会の中の医療①：医療と社会問題 社会的入院と脱施設化			講義	資料
第13回	社会の中の医療②：医療とその「外」／アウトリーチがひらく現実／地域・家族と医療			講義	資料
第14回	社会の中の医療③：変容する社会と医療・看護／変わりゆくあたりまえ			講義	資料
第15回	社会学の使いみち			講義	資料
《成績評価の方法と基準》					
終講試験90% 講義への参加(講義中のやりとりやコメントペーパーの提出など)10%					
《受講上の注意》					
私たちの生きている現実には複雑な多面体です。「わかつたつもり」を抜け出すために、「わからなさ」も切り捨てずに大切にして下さい。その「わからなさ」をより深い「わかる」に育てていくつもりで、毎回の講義に参加してもらえたらと思います。そのためにも、何か質問ができるくらいに注意深く話を聞いて下さい。					

《使用教材（教科書）及び参考図書》

教科書(テキスト)はありません。こちらで資料(スライド・配布資料)を準備して、それを使いながら講義を進めていきます。

(参考図書)『系統看護学講座・基礎分野 社会学』、医学書院

その他、講義の進行に応じて、さらに知りたい・考えてみたいという人たちの手がかりになるものを紹介していけたらと思います。

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	健康論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	上田 智之 武田 智佳子 山田 聖子 山田 拓治 富山 博史	実務経験と その関連資格	九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科 精神看護学 博士(医学)、教授 他 緑保育園 施設長 茶道裏千家 教授 AEAJアロマセラピスト他 健康運動療法士 コーヒー		
《科目全体のねらい・到達目標》 学生自身の健康向上を目指すと同時に、講義を通して知見を深め、心身共に健康を求めていくことを目的とする。 ①自分自身の健康について考えることができる。 ②健康促進する要素について学習できる。 ③健康の意義や生活との関連について理解できる。					
《事前学習内容》 学生自身の健康管理の方法や自主的な運動や心身の健康に心がけた生活の実践ができる。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	健康の概念・健康観について			講義	資料
第2回	Wellness Recovery Action Plan ―キーコンセプト―			講義	資料
第3回	Wellness Recovery Action Plan			講義	資料
第4回	認知行動療法を活用したストレスマネジメントー認知理論			講義	資料
第5回	認知行動療法を活用したストレスマネジメントー行動理論			講義	資料
第6回	健康ー珈琲と健康ー(地域のまちづくり)			講義・GW・演習	
第7回	健康ー珈琲と健康ー(地域のまちづくり)			講義・GW・演習	
第8回	健康づくりーお茶と健康ー			演習	実際の茶室で茶道具を 用いてお茶を点ててみ る、一服頂く。お茶に ついての考え方を学ぶ
第9回	健康づくりーお茶と健康ー			演習	
第10回	アロマセラピーの基本～アロマセラピーとは?～			講義	
第11回	アロマセラピーのメカニズム～香りによる心身への働き～			講義	
第12回	アロマセラピーの実践①～香りでセルフケア・アロマスプレー作り～			講義・演習	アロマスプレー 作成
第13回	アロマセラピーの実践②～人にも環境にも優しい石けんづくり～			演習	石けん作成
第14回	運動生理学からみた健康維持・増進①			講義・演習	
第15回	運動生理学からみた健康維持・増進②			講義・演習	
《成績評価の方法と基準》 授業の終わりにその授業の理解度を問うレポート課題評価を含む。					
《受験上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	発達心理学	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	新牧 恭太	実務経験と その関連資格	久留米大学大学院、心理学研究科後期博士課程 スクールカウンセラー、臨床心理士		
《科目全体のねらい・到達目標》 人々のこころの健康における、回復・保持・増進を支援するために必要な知識を学習する。 様々な年齢（発達段階）・立場から内面や行動について理解を深める。 ①心理的援助に必要な基礎的理論を理解するとともに、その技法について理解できる。 ②対象者との援助的な関係を形成するのに必要な医療者の態度を養うことができる。 ③こころに何らかの問題を抱えている人への支援方法について理解する。					
《事前学習内容》 学習目標と学習課題を掲げている。試験のための学習に用いること。					
《D P との関連》 DP. 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP. 5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容		方法	使用教材及び備考	
第1回	オリエンテーション		講義		
第2回	ストレス		講義		
第3回	感情・知覚・記憶		講義		
第4回	人格心理学		講義		
第5回	発達心理学 1		講義		
第6回	発達心理学 2		講義		
第7回	学習心理学		講義		
第8回	社会心理学		講義		
第9回	アセスメント 1		講義		
第10回	アセスメント 2		講義		
第11回	臨床心理学 1		講義		
第12回	臨床心理学 2		講義		
第13回	医療従事者の心理 1		講義		
第14回	医療従事者の心理 2		講義		
第15回	まとめ		講義		
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点（レポート課題評価を含む。） 出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院 よくわかる発達心理学 ミネルヴァ書房					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	英語（英会話）	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	松尾 直子	実務経験と その関連資格	中学校英語教師、教育事務所指導主事、小中学校 校長、中・高専修教員免許（英語）		
《科目全体のねらい・到達目標》 聞く、話す、読む、書くの4技能を組み合わせながら、日常及び医療現場で必要な英語でのコミュニ ケーションの基礎力をつけていく。 ①英会話により基本的なコミュニケーションを行うことができる。 ②英会話により患者に質問や説明を行うことができる。 ③看護の場における必要な英語を記述し、会話できる。					
《事前学習内容》 学習目標と学習課題を掲げている。試験のための学習に用いること。					
《DPとの関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	オリエンテーション、自己紹介			講義、演習	テキスト
第2回	Unit 1: Can you speak more slowly.			講義、演習	テキスト
第3回	Unit 2: Where are you from?			講義、演習	テキスト
第4回	Unit 3: Could you tell me your address, please?			講義、演習	テキスト 会話テスト
第5回	Unit 4: What department do you want to visit?			講義、演習	テキスト
第6回	Unit 5: Where is the X-ray department?			講義、演習	テキスト
第7回	Unit 6: What are your symptoms?			講義、演習	テキスト 会話テスト
第8回	Review Unit 1-6			演習、テスト	テキスト 小テスト
第9回	Unit 7: Where does it hurt?			講義、演習	テキスト
第10回	Unit 8: Have you ever had any serious illness?			講義、演習	テキスト
第11回	Unit 9: Take one tablet, four times a day.			講義、演習	テキスト 会話テスト
第12回	Unit 10: Let me make an appointment for your test.			講義、演習	テキスト
第13回	Unit 11: Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.			講義、演習	テキスト
第14回	Unit 12: How are you feeling today?			講義、演習	テキスト 会話テスト
第15回	Review Unit 7-12			演習、テスト	テキスト 小テスト
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点（会話テスト、小テストを含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるように、級友とも協力して学習に取り組んでください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 クリスティーンのやさしい看護英会話 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人体の構造と機能	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	解剖生理学 I	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	1) 行平 崇 2) 上瀧 健二	実務経験と その関連資格	1) 帝京大学福岡医療技術学部 修士(保健学) 講師 理学療法士 2) 帝京大学福岡医療技術学部理学療法学科 講師 理学療法士(医学博士)		
《科目全体のねらい・到達目標》 人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命・生活になぜ必要なのかについて理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、人体の構造と機能を正しく予習を進める。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	総論、運動方向、筋			講義	教科書
第2回	ニューロン、シナプス			講義	教科書
第3回	イオンチャネル、受容体			講義	教科書
第4回	心臓			講義	教科書
第5回	血液循環			講義	教科書
第6回	血液成分			講義	教科書
第7回	ホルモン① 脳下垂体～甲状腺			講義	教科書
第8回	ホルモン② 甲状腺～			講義	教科書
第9回	中間試験				
第10回	消化と吸収① 口腔			講義	教科書
第11回	自律神経			講義	教科書
第12回	消化と吸収② 嚥下			講義	教科書
第13回	呼吸			講義	教科書
第14回	腎臓			講義	教科書
第15回	酸―塩基平衡			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖生理学 人体の構造と機能 [1] 解いてわかる解剖生理学問題集 元・常葉大学教授 竹内修二著					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人体の構造と機能	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	解剖生理学Ⅱ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	上田 智之	実務経験と その関連資格	看護師・保健師		
《科目全体のねらい・到達目標》 解剖生理学Ⅰを基盤とし、人体の構造・機能について日常生活行動の視点から理解する ①生きていることを支える日常生活行動を知る。 ②各日常生活行動の最も一般的な型について、からだの仕組みを説明できる。					
《事前学習内容》 実習事前学習 (1年次：解剖生理学 2年次：疾患 3年次：看護)					
《D P との関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.6 探求心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	脳の構造と機能（脳神経の構造）			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第2回	脳の構造と機能（間脳・脳幹・小脳の構造と機能）			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第3回	脳の構造と機能（認知機能と神経基盤）			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第4回	恒常性維持のための調整機構①			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第5回	恒常性維持のための調整機構②			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第6回	正常に呼吸をする			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第7回	適切に飲食する			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第8回	あらゆる排泄経路から排泄する			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第9回	身体の位置を動かし、またよい姿勢を保持する			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第10回	睡眠と休息をとる			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第11回	身体を清潔に保ち、身だしなみを整え皮膚を保護する			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第12回	自分の感情、欲求、恐怖あるいは「気分」を表現して、他者とコミュニケーションをもつ			講義・自己学習 DVD視聴	教科書①②
第13回	課題学習			グループワーク	
第14回	課題学習			グループワーク	
第15回	課題学習			プレゼンテーション	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 解剖生理学 人体の構造と機能〔1〕 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子 日本看護協会出版会 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーベルヒロカワ 看護形態機能学ワークブック NEW体験して考える からだのいとなみ 日本看護協会出版会					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	人体の構造と機能	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	解剖生理学Ⅲ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	木村 涼平	実務経験と その関連資格	看護師・保健師		
《科目全体のねらい・到達目標》 解剖生理学Ⅰを基盤とし、人体の構造・機能について理解したことを説明できる。 解剖プロジェクト:グループの一メンバーとしての役割を果たす。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、人体の構造と機能を正しく予習を進める。					
《D P との関連》 DP4. 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践 することができる。 DP6. 探求心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	解剖見学			講義 DVD視聴	教科書①②
第2回	消化器系の解剖生理学			講義 DVD視聴	教科書①②
第3回	消化器（付属消化器）系の解剖生理学			講義 DVD視聴	教科書①②
第4回	呼吸器系の解剖生理学			講義 DVD視聴	教科書①②
第5回	循環器（心臓）系の解剖生理学			講義 DVD視聴	教科書①②
第6回	循環器（脈管系）系の解剖生理学			講義 DVD視聴	教科書①②
第7回	腎泌尿器（腎臓）系の解剖生理学			講義 DVD視聴	教科書①②
第8回	腎泌尿器（泌尿器）系の解剖生理学			講義 DVD視聴	教科書①②
第9回	脳神経（中枢神経）系の解剖生理学			講義 DVD視聴	教科書①②
第10回	脳神経（末梢神経）系の解剖生理学			講義 DVD視聴	教科書①②
第11回	感覚器系の解剖生理学			講義 DVD視聴	教科書①②
第12回	内分泌系の解剖生理学			講義・GW	教科書①②
第13回	女性生殖器系の解剖生理			講義・GW	教科書①②
第14回	発表			講義・GW	教科書①②
第15回	まとめ、小テスト解説			プレゼンテー ション	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 解剖生理学 人体の構造と機能 [1] 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子 日本看護協会出版会					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人体の構造と機能	対象学年	1 年	授業時間数	30時間（15回）
科 目 名	栄養と代謝 （生化学を包括する）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 （生化学を含む）
担 当 教 員	1）内村 律子 2）小林 正幸	実務経験と その関連資格	1）NPO法人栄養ケア・ちっこ 管理栄養士 2）有明工業高等専門学校 創造工学科 教授		
《科目全体のねらい・到達目標》 人間にとっての栄養の意義、生きるという事、健康との関わりを理解する。 生命を育てていくのに必要な要素を正しく、過不足のない取り方を理解、実践する知識を身につける。 生体構成成分である物質の生体内での作用について学び、人の代謝について理解する。					
《事前学習内容》 健康や栄養状態を考え、保健や医療とつないで考えることができる。 患者のからだを構成している物質の変化を理解できるように予習をすすめる。					
《DPとの関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	生化学を学ぶための基礎、酵素・補酵素			講義	教科書 パワーポイント
第2回	糖質の構造、機能と代謝			講義	教科書 パワーポイント
第3回	脂質の構造、機能と代謝			講義	教科書 パワーポイント
第4回	タンパク質の構造、機能と代謝			講義	教科書 パワーポイント
第5回	ポルフィリン代謝、異物代謝、核酸の構造、機能と代謝			講義	教科書 パワーポイント
第6回	遺伝子の複製			講義	教科書 パワーポイント
第7回	転写、翻訳			講義	教科書 パワーポイント
第8回	第1章 人間栄養学と看護			講義	教科書
第9回	第2章 栄養素の種類とはたらき			講義	教科書
第10回	第3章 食物の消化と栄養素の吸収・代謝			講義	教科書
第11回	第4章 体内のエネルギーバランス			講義	教科書
第12回	第5章 食品と食事			講義	教科書
第13回	第6章 栄養ケア・マネジメント			講義	教科書
第14回	第7章 ライフステージと栄養			講義	教科書
第15回	第8章 臨床栄養			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、生化学・栄養学の平均点をもって評価する。					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院 生化学 人体の構造と機能② 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	薬理学	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	畑瀬 圭佐 陣内 優	実務経験と その関連資格	薬剤師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
薬物の生体への影響を総合的に理解し臨床で有害な薬理作用を早期に発見し、対応できる知識を習得する。					
《事前学習内容》					
教科書に沿って、薬理に関する予習をすすめる。					
《D P との関連》					
DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	薬理学総論 薬理学を学ぶにあたって			講義	小テスト パワーポイント
第2回	薬理学総論 薬理学の基礎知識			講義	小テスト パワーポイント
第3回	薬理学各論 抗感染症薬			講義	小テスト パワーポイント
第4回	薬理学各論 抗がん薬			講義	小テスト パワーポイント
第5回	薬理学各論 免疫治療薬			講義	小テスト パワーポイント
第6回	薬理学各論 抗アレルギー薬・抗炎症薬			講義	小テスト パワーポイント
第7回	薬理学各論 末梢での神経活動に作用する薬物			講義	小テスト パワーポイント
第8回	中枢神経系に作用する薬物			講義	小テスト パワーポイント
第9回	循環器系に作用する薬物			講義	小テスト パワーポイント
第10回	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物			講義	小テスト パワーポイント
第11回	物質代謝に作用する薬物			講義	小テスト パワーポイント
第12回	皮膚科用薬、眼科用薬			講義	小テスト パワーポイント
第13回	救急の際に使用される薬物、漢方薬			講義	小テスト パワーポイント
第14回	消毒薬、輸液製剤、輸血剤			講義	小テスト パワーポイント
第15回	特別講義（警察）薬物乱用(覚せい剤について)			講義	
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進③ 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年次	授業時間数	14時間(7回)
科 目 名	病因論 病理学	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (微生物学を含む)
担 当 教 員	島松 一秀	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 患者に起こっている病理的状态の理解に必要な、疾病の成り立ちについての基礎的知識として、病因と病態の特徴を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って予習を進める。					
《D P との関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	病理学で学ぶこと 看護と病理学			講義	教科書
第2回	細胞・組織の障害と修復 壊死、再生 細胞の損傷と適応			講義	教科書
第3回	免疫、移植と再生医療、アレルギー 感染症、炎症			講義	教科書
第4回	循環障害 うっ血、充血、血栓、栓塞、DIC			講義	教科書
第5回	代謝障害 肥満、糖尿病、高血圧			講義	教科書
第6回	老死と死 先天異常と遺伝性疾患			講義	教科書
第7回	腫瘍 腫瘍の分類、診断、治療			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	16 時間（8回）
科 目 名	病因論 微生物	学 期	前半	授業単位数	1単位 （病理学を含む）
担 当 教 員	大隈 光信	実務経験と その関連資格	臨床検査技師		
《科目全体のねらい・到達目標》 患者に起こっている病理的状态の理解に必要な、疾病の成り立ちについての基礎的知識として、病因と病態の特徴を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って予習をすすめる。					
《DP との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	最近の感染症について（小試験）			講義	パワーポイント 教科書
第2回	院内感染と細菌の性質			講義	パワーポイント 教科書
第3回	感染経路と消毒・滅菌			講義	パワーポイント 教科書
第4回	感染に対する生体防御機構			講義	パワーポイント 教科書
第5回	微生物検査と病原細菌			講義	パワーポイント 教科書
第6回	細菌感染症			講義	パワーポイント 教科書
第7回	真菌と原虫感染症			講義	パワーポイント 教科書
第8回	ウィルス感染症			講義	パワーポイント 教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 微生物学 疾病の成り立ちと回復の促進④ 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	14時間（7回）
科 目 名	疾病各論Ⅰ （呼吸器・血液）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 （内分泌・代謝を含む）
担 当 教 員	丸山 正夫	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 呼吸器・血液系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を 実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	呼吸器の構造と機能、症状について			講義	教科書
第2回	呼吸器系症状とその病態生理			講義	教科書
第3回	検査と治療・処置			講義	教科書
第4回	呼吸器疾患の理解（各論）			講義	教科書
第5回	血液の機能と造血のしくみ、症状について			講義	教科書
第6回	血液疾患の検査と治療（総論）			講義	教科書
第7回	疾患の理解（各論）			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 呼吸器 成人看護学② 医学書院 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	16時間（8 回）
科 目 名	疾病各論Ⅰ（内分泌・代謝）	学 期	後期	授業単位数	1 単位 （呼吸・血液を含む）
担 当 教 員	村石 和久 若松 謙太郎	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 内分泌・代謝系の疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《DP との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践 することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	内分泌各論			講義	教科書
第2回	内分泌・代謝器官の構造と機能 内分泌器官とホルモンの機能 代謝の概要と機能			講義	教科書
第3回	症状とその病態生理			講義	教科書
第4回	検査 内分泌疾患の検査・代謝疾患の検査 疾患の理解 内分泌疾患 代謝疾患			講義	教科書
第5回	まとめ			講義	教科書
第6回	アレルギー 免疫のしくみとアレルギー			講義	教科書
第7回	アレルギー 膠原病 診断・検査と治療			講義	教科書
第8回	アレルギー 膠原病 症状と疾患の理解			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 名取講師60点、若松講師40点 合計100点満点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	20時間（10回）
科 目 名	疾病各論Ⅱ（消化器）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 （腎・泌尿器を含む）
担 当 教 員	福森 一太	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 消化器系の疾患に関して病態・治療・検査予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践 することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	消化器の構造と機能 食道 胃 十二指腸 小腸 大腸 直腸 肛門			講義	パワーポイント
第2回	消化器の構造と機能 肝臓 胆道系 膵臓			講義	パワーポイント
第3回	症状とその病態生理(1) A 嚥下困難 ～ F 下痢			講義	パワーポイント
第4回	症状とその病態生理(2) G 便秘 ～ L 肝性脳症			講義	パワーポイント
第5回	検査と治療(1) A 診察と診断の流れ ～ B 検査			講義	パワーポイント
第6回	検査と治療(2) C 治療			講義	パワーポイント
第7回	疾患の理解(1) 食道疾患 胃十二指腸疾患			講義	パワーポイント
第8回	疾患の理解(2) 腸および腹膜疾患 肛門疾患			講義	パワーポイント
第9回	疾患の理解(3) 肝臓・胆嚢の疾患			講義	パワーポイント
第10回	疾患の理解(4) 膵疾患 急性腹症 腹部外傷 寄生虫疾患			講義	パワーポイント
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 消化器 成人看護学⑤ 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	10時間（5 回）
科 目 名	疾病各論Ⅱ（腎・泌尿器）	学 期	後期	授業単位数	1 単位 （消化器を含む）
担 当 教 員	徳永 高帆	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
腎・泌尿器系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する					
《事前学習内容》					
教科書に沿って予習をすすめる					
《D P との関連》					
DP4. 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践 することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	腎泌尿器の構造と機能 尿管の構造と機能 膀胱の構造と機能 尿道の構造と機能 男性生殖器の構造と機能			講義	教科書
第 2 回	症状と病態生理 尿の異常 排尿に関連した症状 浮腫 脱水 循環器系の異常 血液の異常 尿毒症 疼痛 腫脹・腫瘍			講義	教科書
第 3 回	検査と治療 診察 検査 治療と処置 透析療法			講義	教科書
第 4 回	疾患の理解			講義	教科書
第 5 回	まとめ			講義 DVD視聴	教科書
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	30時間（15回）
科 目 名	疾病各論Ⅲ 循環器系	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	貞松 研二	実務経験とその関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 循環器系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材及び備考
第 1 回	①心臓の構造・機能 ②循環器概論			講義	教科書
第 2 回	症状とその病態生理（1）			講義	教科書
第 3 回	症状とその病態生理（2） 問診・身体所見のとり方			講義	教科書
第 4 回	検査（1）			講義	教科書
第 5 回	検査（1）			講義	教科書
第 6 回	治療・処置（1）			講義	教科書
第 7 回	治療・処置（2）			講義	教科書
第 8 回	虚血性心疾患（1）			講義	教科書
第 9 回	虚血性心疾患（2）			講義	教科書
第10回	心不全・血圧			講義	教科書
第11回	不整脈（1）			講義	教科書
第12回	不整脈（2）			講義	教科書
第13回	弁膜症・心膜疾患・心筋疾患			講義	教科書
第14回	動脈・静脈・リンパ系疾患			講義	教科書
第15回	先天性心疾患・総括			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 循環器 成人看護学③ 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年次	授業時間数	14時間(7回)
科 目 名	疾病各論Ⅳ（脳神経）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (疾病各論Ⅳ全てを含む)
担 当 教 員	倉本晃一 江藤朋子 山下伸	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
脳・神経系疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する					
《事前学習内容》					
教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》					
DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた 看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	脳・神経系の構造と機能			講義	スライド
第 2 回	神経症状のみかた、病態生理			講義	スライド
第 3 回	神経疾患の症状のとり方、検査・診断と治療・処置について			講義	スライド
第 4 回	脳血管障害、脳腫瘍			講義	スライド
第 5 回	頭部外傷、水頭症、末梢神経障害、感染症			講義	スライド
第 6 回	神経・筋疾患、脱髄・変性疾患、中毒、てんかん、認知症			講義	スライド
第 7 回	まとめ、補足など			講義	スライド
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
脳神経 成人看護学⑦ 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	4 時間（2 回）
科 目 名	疾病各論Ⅳ（皮膚系）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 （疾病各論Ⅳ全てを含む）
担 当 教 員	白濱 稔大	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 感覚器系疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	皮膚科について			講義	スライド
第 2 回	皮膚科設問について			講義	スライド
《成績評価の方法と基準》 終講試験は、皮膚系・視覚器系・聴覚嗅覚系・歯科口腔器系 4科目各25点とし、合計100点とする。 出席状況、 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 皮膚科 成人看護学⑫ 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	4 時間（2 回）
科 目 名	疾病各論Ⅳ（眼系）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 （疾病各論Ⅳをすべて含む）
担 当 教 員	諸岡 居織	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 感覚器系疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	脳神経の知識を深める			講義	パワーポイント DVD
第 2 回	眼科領域の疾患の知識を深める			講義	パワーポイント DVD
《成績評価の方法と基準》 終講試験は、皮膚系・視覚器系・聴覚嗅覚系・歯科口腔器系 4科目各25点とし、合計100点とする。 出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 眼 成人看護学⑬ 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと 開腹の促進	対象学年	2 年	授業時間数	4 時間（2 回）
科 目 名	疾病各論Ⅳ（耳鼻咽喉系）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 （疾病各論Ⅳ全てを含む）
担 当 教 員	関 正大	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 感覚器系疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	耳・鼻の構造と疾患に関して			講義	スライド、教科書
第 2 回	口腔・咽喉頭・頸部領域の構造や疾患に関して			講義	スライド、教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験は、皮膚系・視覚器系・聴覚嗅覚系・歯科口腔器系 4 課目各25点とし、合計100点とする。 出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 耳鼻咽喉 成人看護学⑭ 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	4 時間（2 回）
科 目 名	疾病各論Ⅳ（歯・口腔系）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 （疾病各論Ⅳ全てを含む）
担 当 教 員	阿津坂 崇士	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
感覚器系疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する					
《事前学習内容》					
教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》					
DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた 看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	・ 歯科口腔の動向 ・ 口腔の名称			講義	スライド 教科書
第 2 回	・ 歯科病態 ・ 歯科の検査 ・ 介護・口腔ケアについて			講義	スライド 教科書
《成績評価の方法と基準》					
終講試験は、皮膚系・視覚器系・聴覚嗅覚系・歯科口腔器系 4 課目各25点とし、合計100点とする。					
出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
歯・口腔 成人看護学⑮ 医学書院					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	16時間(8回)
科 目 名	疾病各論Ⅴ（運動器系）	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (リハビリを含む)
担 当 教 員	西見 一彦	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 運動器疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	整形外科基礎知識			講義	スライド
第2回	運動器の構造と機能			講義	スライド
第3回	運動器疾患の検査・診療・治療			講義	スライド
第4回	整形外科的治療法			講義	スライド
第5回	脊椎・脊髄の損傷・疾患			講義	スライド
第6回	骨軟部腫瘍			講義	スライド
第7回	骨折・外傷			講義	スライド
第8回	骨折・外傷			講義	スライド
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 運動器 成人看護学⑩ 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2 年	授業時間数	14時間 (7回)
科 目 名	疾病各論Ⅴ (リハビリテーション論)	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (運動器を含む)
担 当 教 員	関 誠	実務経験と その関連資格	帝京大学 福岡医療技術学部 理学療法学科 教授		
《科目全体のねらい・到達目標》 リハビリテーションの意義を理解し、機能障害や能力低下に対応できる訓練や代償方法を学び、リハビリテーション看護の方法論を習得する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	リハビリテーション総論 リハビリテーション看護の概要			講義	PC・プロジェクター
第 2 回	リハビリテーション看護の対象 リハビリテーション看護に関連する法制度			講義	PC・プロジェクター
第 3 回	ステージ別 リハビリテーション看護 リハビリテーション看護を展開するための基盤			講義	PC・プロジェクター
第 4 回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護			講義	PC・プロジェクター
第 5 回	これからのリハビリテーション看護			講義	PC・プロジェクター
第 6 回	脊髄損傷のリハビリテーション			講義	PC・プロジェクター
第 7 回	せき損センター見学				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 リハビリテーション看護 成人看護学⑩ 医学書院					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	健康支援と社会保障制度	対象学年	2 年	授業時間数	15時間(8回)
科 目 名	保健医療社会保障論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	川崎雅之 古賀浩介 西山 努	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 個人・集団の健康の保持・増進のための、組織的な保健活動について理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	生きることと死ぬこと			講義	パワーポイント
第2回	医学と医療			講義	パワーポイント
第3回	保健・医療・介護(切れ目のないサポートの現実)			講義	教科書
第4回	保健・医療・介護(切れ目のないサポートの現実)			講義	教科書
第5回	保健・医療・介護(切れ目のないサポートの現実)			講義	教科書
第6回	医療概論：医療と社会			講義	
第7回	医療概論：医療経済学			講義	
第8回	医療概論：医療政策			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点 、 出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 医療概論 健康支援と社会保障制度 1 医学書院 参考：別巻 総合医療論					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	健康支援と社会保障制度	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	公衆衛生	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	森山 浩司	実務経験と その関連資格	保健師		
《科目全体のねらい・到達目標》 公衆衛生を学ぶことを通して、個人、集団の健康の保持・増進のための、組織的な保健活動について理解する					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材及び備考
第1回	公衆衛生を学ぶにあたって			講義	教科書
第2回	公衆衛生の活動対象			講義	教科書
第3回	公衆衛生のしくみ：政策展開、国と地方自治体の役割			講義	教科書
第4回	公衆衛生のしくみ：専門職の働き、多職種協働、住民との協働			講義	教科書
第5回	集団の健康を捉えるための手法：疫学とは			講義	教科書
第6回	集団の健康を捉えるための手法：健康指標			講義	教科書
第7回	環境と健康			講義	教科書
第8回	感染症とその予防対策			講義	教科書
第9回	国際保健			講義	教科書
第10回	地域における公衆衛生の実践：母子			講義	教科書
第11回	地域における公衆衛生の実践：成人・高齢			講義	教科書
第12回	地域における公衆衛生の実践：精神・障害者・難病			講義	教科書
第13回	学校と健康			講義	教科書
第14回	職場と健康			講義	教科書
第15回	健康危機管理・災害保健			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点 、 出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	健康支援と社会保障制度	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	関係法規	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	山下 一幸	実務経験と その関連資格	市役所で介護保険、精神保健、生活保護等の業務に従事中（19年目） （保有資格：介護支援専門員、社会福祉士、精神保健福祉士）		
《科目全体のねらい・到達目標》 看護師国家試験の過去問演習により、『健康支援と社会保障制度』科目における保健医療及び社会保障、社会福祉等に関する制度とそれを規定する法令を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《DPとの関連》 DP. 5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	・授業計画及び科目別出題傾向について ・教科書「第2章 看護法」に関する過去問の回答解説（5） ・教科書「第5章 薬務法」に関する過去問の回答解説（3）			過去問の回答解説	プロジェクター 投影 (適宜)
第2回	・教科書「第4章 保健衛生法」に関する過去問の回答解説（10）				
第3回	・教科書「第4章 保健衛生法」に関する過去問の回答解説（10）				
第4回	・教科書「第4章 保健衛生法」に関する過去問の回答解説（7）				
第5回	・教科書「第6章 社会保険法」に関する過去問の回答解説（10）				
第6回	・教科書「第6章 社会保険法」に関する過去問の回答解説（11）				
第7回	・教科書「第6章 社会保険法」に関する過去問の回答解説（10）				
第8回	・教科書「第3章 医事法」に関する過去問の回答解説（11）				
第9回	・教科書「第7章 福祉法」に関する過去問の回答解説（11）				
第10回	・教科書「第7章 福祉法」に関する過去問の回答解説（4） ・教科書「第9章 環境法」に関する過去問の回答解説（5）				
第11回	・教科書「第8章 労働法と社会基盤整備」に関する過去問の回答解説（13）				
第12回	・看護師国家試験(第108回 午前問題)の過去問の回答解説（13）				
第13回	・看護師国家試験(第108回 午後問題)の過去問の回答解説（12）				
第14回	・看護師国家試験(第109回 午前問題)の過去問の回答解説（13）				
第15回	・看護師国家試験(第109回 午後問題)の過去問の回答解説（10）				
《成績評価の方法と基準》 終講試験、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ・『看護関係法令 健康支援と社会保障制度④』／医学書院 ・『看護師国家試験の過去問』／講師作 ・『看護関係法令 資料集』／講師作					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	健康支援と社会保障制度	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	社会福祉	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	夏目 尚	実務経験と その関連資格	社会福祉士、言語聴覚士		
《科目全体のねらい・到達目標》 保健医療における福祉の理念・社会福祉制度・社会保障について、社会資源の活用、理解する					
《事前学習内容》					
《D P との関連》 DP.5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し、多様な場で生活 する人々へ看護を提供することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	社会福祉とは			講義	教科書
第2回	社会保障制度			講義	教科書
第3回	社会福祉の法制度			講義	教科書
第4回	現代社会の変化			講義	教科書
第5回	社会保障・社会福祉の動向			講義	教科書
第6回	医療保険の導入			講義	教科書
第7回	医療保障			講義	教科書
第8回	介護保障（1）			講義	教科書
第9回	介護保障（2）			講義	教科書
第10回	所得保障			講義	教科書
第11回	社会福祉（1） 公的扶助			講義	教科書
第12回	社会福祉（2）			講義	教科書
第13回	社会福祉（3）			講義	教科書
第14回	社会福祉実践と医療・看護			講義	教科書
第15回	社会福祉の歴史			講義・DVD	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	看護学概論 (国際看護、看護管理含む)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	1) 小塩 美枝子 2) 日高 陵好 3) 雪野 美和	実務経験と その関連資格	1)看護師 2)助産師 3)看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。 看護の機能と役割の重要性を認識し、基本となる姿勢や考え方を学ぶ。 国際社会における保健医療福祉の実績を知り、国際協力について考えることができる。 看護管理についての基礎的知識を修得できる。					
《事前学習内容》 「看護覚え書」を読み、ナイチンゲールの説いた「人間」「健康」「看護」とは何かを事前学習し講義に臨むこと。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践 することができる。 DP.5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する 人々へ看護を提供することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備 考
第1回	看護とは 1) 看護の語源 2) 看護の定義 3) 保健師助産師看護師法 課題をもとに「看護とは」「看護師はに何をする人なのか」			講義・GW	教科書・資料
第2回	「看護とは」			GW・個人W	教科書・資料
第3回	「看護とは」「看護師とは何をする人なのか」			発表	教科書・資料
第4回	看護の対象の理解 1) 人間の「こころ」と「からだ」 2) 人間の発達			講義	教科書・資料
第5回	健康の捉え方 1) 健康とは 2) 国民の健康と全体像 3) 国民のライフサイクル			講義	教科書・資料
第6回	看護の提供者 1) 職業としての看護 2) 看護職の資格・養成制度			講義	教科書・資料
第7回	看護における倫理 1) 職業倫理			講義	教科書・資料
第8回	国際看護			講義	教科書・資料
第9回	1) 国際看護の基本的理解 2) 異文化理解 3) 外国人への看護				
第10回	看護管理 マネジメントに必要な知識と技術 PDCAサイクル リーダーシップ論			講義・演習	教科書・資料
第11回	看護単位と機能の特徴 看護ケア提供システム			講義	教科書・資料
第12回	看護サービスのマネジメントの対象と範囲 (人材・施設設備・物品・情報) リスクマネジメント (安全対策、医療事故対策) チーム医療 サービスの評価				
第13回	日常業務のマネジメント	1日の業務の組み立て方 重症度と緊急度	優先順位と多重課題 タイムマネジメント	講義・演習	教科書・資料
第14回	看護職のキャリア形成	看護職の技能習得段階・臨床実践能力の向上		講義・演習	教科書・資料
第15回	先輩の看護に学ぶ	看護科3年生ケーススタディ発表参加		ケーススタディ 聴講	
《成績評価の方法と基準》 看護概論 (7回) 50点 国際看護 (2回) 15点 看護管理 (5回) 30点 ケーススタディ聴講 (1回) 5点 受講態度・出席状況・提出物を含む					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 1、医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 2、医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 3、医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 4、医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅰ (共通技術)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	坂口 実枝子 教務	実務経験と その関連資格	感染管理認定看護師 看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 基本的な看護技術の土台となる技術について習得することができる。					
《事前学習内容》 入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《D P との関連》 DP. 3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践することができる。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP. 6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	看護技術を適切に実践するための要素			講義	スライド
第2回	「コミュニケーション技術」 効果的なコミュニケーションの実際			講義	スライド
第3回	[安全確保の技術] 事故防止の基礎知識 誤薬・チューブ類の事故・患者誤認・転倒転落 薬剤・放射線暴露			講義	スライド
第4回	「看護過程の基礎知識」 5つの構成要素・問題解決思考・クリティカルシンキング・リフレクション			講義	スライド
第5回	「看護過程の基礎知識」 アセスメント・看護問題の抽出			講義	スライド
第6回	「看護過程の基礎知識」 計画・実践・評価			講義	スライド
第7回	「看護記録」 法的な位置づけ・構成・目的・機能・留意点			講義	スライド
第8回	「看護研究」 目的・意義・種類 研究の問い（リサーチクエスト）とは			講義	スライド
第9回	「看護研究」 文献検索・文献クリティークの基礎			講義	スライド
第10回	「看護研究」 研究計画書の書き方			講義	スライド
第11回	「感染予防の技術」 標準予防策（スタンダードプリコーション） 感染経路別予防策・洗浄・滅菌・無菌操作			講義・演習	パワーポイント
第12回	「感染予防の技術」 針刺し防止策・事故後の対応 医療施設における感染管理			講義	パワーポイント
第13回	「感染予防の技術」 必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等） 感染性廃棄物の取扱い			講義・演習	パワーポイント
第14回	「学習支援」 看護における学習支援の基本的な考え方			講義	スライド
第15回	「学習支援」 演習：学習支援			演習	スライド
《成績評価の方法と基準》 成績評価 終講試験 100点（技術試験 提出物を含む） 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 3、医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究 4、学研 疾患別看護過程の展開 第6版 5、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学①看護学概論					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅱ (ヘルスアセスメント他)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	藤崎 智文 教務	実務経験と その関連資格	集中ケア認定看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 スクリーニングとフィジカルイグザミネーションによる情報を統合し、患者の身体状況と持っている力を確認・判断する技術を修得する。					
《事前学習内容》 入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《D P との関連》 DP.3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践することができる。 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができ					
授業の方法	内 容			方法	使用教材及び備考
第1回	バイタルサイン：体温・脈拍・血圧・呼吸状態・意識レベル 身体計測 身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲（尿検査を含む）			講義・演習	
第2回	臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」「反応する」「リフレクション」			講義・演習	
第3回	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性、 問診におけるテクニック、コミュニケーションの方法、情報の確認			講義・演習	PP
第4回	フィジカルイグザミネーション（視診・聴診・触診・打診）			講義・演習	PP
第5回	バイタルサインのアセスメント 体温・脈拍・血圧・呼吸状態・意識レベル			講義・演習	PP
第6回	バイタルサインのアセスメント 体温・脈拍・血圧・呼吸状態・意識レベル			講義・演習	PP
第7回	呼吸器系のフィジカルアセスメント 正常な呼吸音、呼吸音聴取部位と方法、副雑音			講義・演習	PP
第8回	循環器系のフィジカルアセスメント 正常な心音、心音聴取部位と方法、異常心音、チアノーゼとアセスメントの方法、浮腫とアセスメントの方法			講義・演習	PP
第9回 第10回	総合演習：事例を通してバイタル測定とフィジカルアセスメント 体温・脈拍・血圧・呼吸状態・意識レベル、呼吸音、心音聴取 循環、呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護			演習	別館使用
基 礎 看 護 学 実 習 I					
第11回	基礎看護学実習Ⅰの実践を通してのリフレクション			講義・演習	
第12回	腹部のフィジカルアセスメント 腹部の構造、体表区分、腹部のアセスメント(視診・触診・腸蠕動音・打診)について			講義・演習	PP
第13回	筋・骨格筋系のフィジカルアセスメント 人間が運動するときに働く身体機能と筋・骨格系のフィジカルアセスメントの方法			講義・演習	PP
第14回	脳神経系のフィジカルアセスメント 意識があるということはどういうことか、人間が行動するために働いている身体機能について理解し、脳・神経系のフィジカルアセスメントの方法			講義・演習	PP
第15回	頭頸部と感覚器系／外皮系(皮膚・爪)のフィジカルアセスメント 事例展開症状から臨床判断能力の実践			講義・演習	PP
《成績評価の方法と基準》					

成績評価 終講試験 100点(技術試験 提出物を含む) 出席状況 受講態度

《受講上の注意》

講義は臨床判断能力を高めるために、第2回目から第15回目まで事例を用いて講義をします。DPとの関連性を考えて構築しています。身体の解剖生理学と疾病各論での講義内容を理解した上でフィジカルアセスメントができるように主体的に取り組んでください。

《使用教材（教科書）及び参考図書》

- 1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ
- 2、メヂカルフレンド社 初めてのフィジカルアセスメント

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅲ (日常生活援助技術)	学 期	前期～後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	栗原 松代	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 日常生活行動援助技術について学習する。					
《事前学習内容》 入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《D P との関連》 DP. 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP. 3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践する ことができる。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することが できる。 DP. 6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び 備考
第 1 回	イントロダクション（講義について） 看護技術とは何か（看護実践の構成要素、アートとサイエンス、 EBN（科学的根拠）） 看護実践と看護技術の繋がりについて考える			講義	資料、 スライド
第 2 回	快適な環境をつくる援助技術 人間にとっての環境の意味、闘病意欲を高める環境について看護の視 点からアセスメント			講義	資料、 スライド
第 3 回 第 4 回	食事・栄養摂取を促す援助技術（消化器系、呼吸と嚥下） 人間にとっての食事の意味、栄養と食事のニーズを充足させるための 基礎的知識と援助 健康のレベル・食事行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズを充足 させる方法について、看護の視点から考える。			講義	資料、 スライド
第 5 回 第 6 回	排泄を促す援助技術 排尿・排便に関するメカニズム、意義 健康的な生活を送る為に必要な援助を説明（事例演習）			講義・演習	資料、 スライド
第 7 回	基本的活動を促す援助技術 基本的活動の基礎知識、体位、移動			講義	資料、 スライド
第 8 回	睡眠・休息を促す援助技術 人の休息・睡眠の意義とそのメカニズム、必要性に応じた休息・睡眠 のとり方 休息・睡眠に関する障害についてアセスメント、援助を考える			講義	資料、 スライド
第 9 回	苦痛の緩和・安楽かつ快適さをもたらす援助技術 体位保持、電法、身体ケアの結果もたらされる安楽			講義	資料、 スライド
第10回 第11回	身体の清潔・衣生活援助技術 皮膚粘膜の保護、清潔保持に関する生理学的メカニズム 健康な生活を送るために必要な援助、清潔に関するニーズのアセスマ ントと援助 衣生活に関するニーズのアセスメントと援助（事例演習）技術演習に 向けた事例提示			講義・演習	資料、 スライド
第12回	演習準備 演習計画の立案（個人、グループワーク）			講義・GW	資料、 スライド
第13回 第14回	技術演習の実際（別館）			演習	資料、 スライド
第15回	技術演習の振り返り 総まとめ			講義	資料、 スライド
《成績評価の方法と基準》 成績評価 終講試験 100点（技術試験 提出物を含む） 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 2、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護学総論					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅳ (診療の補助技術)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	前原 佳香	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
1. 主要症状の発生メカニズムを理解した上で、治療の基本および援助の方法について学ぶ。					
2. 対象の健康障害を理解し、治療関連技術について学習する。					
《事前学習内容》					
入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《D P との関連》					
DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP.3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践することができる。					
DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	呼吸を整える技術①	1. 酸素 2. 排痰ケア 3. 吸引		講義	教科書
第2回	呼吸を整える技術②	1. 胸腔ドレナージ 2. 吸入 3. 人工呼吸療法		講義	教科書
第3回	循環を整える技術 創傷管理技術	1. 体温管理 2. 末梢循環促進ケア 3. 創傷 4. 褥瘡予防		講義	教科書
第4回	与薬の技術①	1. 基礎知識		講義	教科書
第5回	与薬の技術②	1. 注射 2. 輸血		講義	教科書
第6回	死の看取りの援助 救命救急処置技術	1. 死の看取りの援助 2. 救命救急処置 3. 止血法		講義	教科書
第7回	救命救急処置	救命処置		演習	
第8回	救命救急処置	救命処置		演習	
第9回	診察・検査・処置に おける技術	1. 検体検査 2. 診察介助 3. 検査介助		講義	教科書
第10回	院内急変時の対応	1. ISBAR		講義	教科書
第11回	脊髄損傷のAさんの援助①	場面1 坐薬投与		演習	
第12回	脊髄損傷のAさんの援助②	場面2-1 検査		演習	
第13回	脊髄損傷のAさんの援助③	場面2-2 酸素		演習	
第14回	脊髄損傷のAさんの援助④	場面3-1 ISBAR		演習	
第15回	脊髄損傷のAさんの援助⑤	場面3-2 排痰ケア		演習	
《成績評価の方法と基準》					
終講試験100%					
《受験上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
1. 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ					
2. 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護学総論					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅴ (看護過程)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	前原 佳香	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 看護の技術を総合して、患者をアセスメントし看護過程を展開する能力を養う。					
《事前学習内容》					
《DPとの関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践する ことができる。 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することが できる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	看護過程の基礎	1. 看護過程とは 看護とは、看護過程の5つの構成要素 2. 看護過程の基盤となる考え方 問題解決過程、クリティカルシンキン グ、臨床推論と臨床判断 3. ヘンダーソンの看護理論		講義	
第2回	看護過程の展開 (1) 患者情報の記載、意図的な 情報収集のための基礎知識 の習得	脊髄損傷のAさん 1. 常在条件、病理的状态に関する情報収集 2. 病態関連図		講義	
第3回	看護過程の展開 (2) 意図的な情報収集、アセス メント	脊髄損傷のAさん 1. 基本的欲求 (14項目) に関する情報収集 2. 基本的欲求 (14項目) の分析・解釈		講義	
第4回	看護過程の展開 (3) 全体像 (全体関連図) の描 写、看護問題の明確化 (看 護診断)	脊髄損傷のAさん 1. 全体像 (全体関連図) 2. 看護問題と看護診断 NANDA-I、看護問題の種類・表記方法、共同 問題		講義	
第5回	看護過程の展開 (4) 優先順位の決定、看護計画 の立案	脊髄損傷のAさん 1. 優先順位の決定 2. 看護計画の立案		講義	
第6回	看護過程の展開 (5) 実施記録、評価 看護記録とは	脊髄損傷のAさん 1. 実施記録：POS、PONR 2. 評価 3. 看護記録とは 記載・管理における注意点、看護記録の 構成 (基礎情報、看護計画、経過記録、看 護サマリー)		講義	
第7回	事例を用いた演習 (1) 情報収集、アセスメント	心不全のAさん 1. 常在条件の整理をする 2. 病理的状态の整理と学習をする		演習	
第8回	事例を用いた演習 (2) 情報収集、アセスメント	心不全のAさん 1. 情報を整理し、基本的欲求 (14項目) の 分析・解釈をする		演習	
第9回	事例を用いた演習 (3) 情報収集、アセスメント	心不全のAさん 1. 情報を整理し、基本的欲求 (14項目) の 分析・解釈をする		演習	

第10回	事例を用いた演習 (4) 情報収集、アセスメント	心不全のAさん 1. 基本的欲求 (14項目) の分析・解釈をする 2. 基本的欲求 (14項目) の充足・未充足の判断をする	演習	
第11回	事例を用いた演習 (5) 全体像、看護問題の明確化、優先順位の決定	心不全のAさん 1. 全体関連図を作成し、全体像を把握する 2. 看護問題を明確にする	演習	
第12回	事例を用いた演習 (6) 全体像、看護問題の明確化、優先順位の決定、看護計画の立案	心不全のAさん 1. 全体関連図を作成し、全体像を把握する 2. 看護問題を明確にする	演習	
第13回	事例を用いた演習 (7) 優先順位の決定、看護計画の立案	心不全のAさん 1. 看護問題の優先順位を決定する 2. 看護計画を立案する	演習	
第14回	事例を用いた演習 (8) 看護計画の立案	心不全のAさん 1. 看護計画を立案する	演習	
第15回	ケーススタディ聴講			資料
《成績評価の方法と基準》 1. 課題30% 2. 筆記試験70%				
《受験上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。				
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1, 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学2 基礎看護技術 I (医学書院) 2, ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程 看護計画立案モデル (4) (ヌーベルヒロカワ) 3, 経過が見える疾患別病態関連マップ (2) (学研)				

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	地域・在宅看護論	対象学年	2 年	授業時間数	15時間(8回)
科 目 名	在宅看護概論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	津留大悟	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 地域・在宅看護の対象であるその人は、個人として存在するだけでなく、家族や様々なコミュニティの一員であり、地域のシステムの中にある。 ①人口の高齢化の現状と問題、高齢者に関わる保健・医療・福祉の概要を説明できる。 ②老年看護の活動の場と高齢者を介護する家族を知り、看護師の役割を説明できる。 ③老年期の人々が生活する中で体験する倫理問題について考えることができる。					
《事前学習内容》 学生の身近にある人々の暮らしから看護の学びをはじめ、暮らしの基盤としての地域を理解する。					
《DPとの関連》 D P. 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 D P. 2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力 D P. 3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 D P. 5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	在宅医療や訪問看護を知る 序章 動画			講義	
第2回	第1章 人々の暮らしと地域・在宅看護 ワーク①暮らしを理解するワーク			講義	
第3回	第2章 暮らしの基盤としての地域の理解 ワーク②地域を理解するワーク			講義	
第4回	第3章 地域・在宅看護の対象 ワーク③家族を理解するワーク			講義	
第5回	第4章 地域における暮らしを支える看護			講義	
第6回	第5章 地域・在宅看護実践の場と連携 ワーク④多職種との連携・協働を考えるワーク			講義	
第7回	第6章 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用			講義	
第8回	まとめ・テスト対策			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受験上の注意》 わかって、説明できることをめざす授業です。1回1回の授業に真剣に取り組み、 努力して「理解できる」ようになりましょう。 この学習が老年看護学実習の基盤となります。 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 1. 系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎 医学書院 2. 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院 老年看護学 青踏社 国民衛生の動向					

教 育 内 容	地域・在宅看護論	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	在宅看護援助論Ⅰ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	津留大悟	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 地域・在宅看護の対象であるその人は、個人として存在するだけでなく、家族や様々なコミュニティの一員であり、地域のシステムの中にある。 ①人口の高齢化の現状と問題、高齢者に関わる保健・医療・福祉政策の概要を説明できる。 ②老年看護の活動の場と高齢者を介護する家族を知り、看護師の役割を説明できる。 ③老年期の人々が生活するなかで体験する倫理問題について考えることができる。					
《事前学習内容》 学生の身近にある人々の暮らしから看護の学びをはじめ、暮らしの基盤としての地域を理解する。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を養う。 DP.3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	序章			講義	
第2回	第1章 地域・在宅看護の展開			講義	
第3回	第4章 地域・在宅看護の事例展開 小児			講義	
第4回	第4章 地域・在宅看護の事例展開 脳卒中・COPD			講義	
第5回	第4章 地域・在宅看護の事例展開 ALS・パーキンソン			講義	
第6回	第4章 地域・在宅看護の事例展開 統合失調症・認知症			講義	
第7回	第4章 地域・在宅看護の事例展開 がん			講義	
第8回	第5章 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働			講義	
第9回	訪問看護ステーションをつくろう① ワーク			講義	
第10回	訪問看護ステーションをつくろう② ワーク			講義	
第11回	第6章 地域・在宅看護マネジメント 退院支援・外来			講義	
第12回	第6章 地域・在宅看護マネジメント ケアプラン作成①			講義	
第13回	第6章 地域・在宅看護マネジメント ケアプラン作成②			講義	
第14回	第7章 地域・在宅看護活動の創造と展開例			講義	
第15回	まとめ・テスト対策			講義	
《成績評価の方法と基準》 筆記試験 100%					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	地域・在宅看護論	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	在宅看護援助論Ⅱ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	西原 昌代	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 地域・在宅看護の対象である個人と家族や様々なコミュニティの中で地域包括ケアシステムを活用し健康増進や継続看護の役割を理解できる。 ①人口の少子・高齢化の現状と保健・医療・福祉政策の概要を説明できる。 ②老年看護の活動の場と高齢者を介護する家族を知り、看護師の役割を説明できる。 ③地域の人々の生活を支援できる看護が実践できる。					
《事前学習内容》 暮らしの基盤としての地域を理解する。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を養う。 DP.3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	呼吸器管理 食生活、嚥下			講義	
第2回	移乗 清潔			講義	
第3回	褥瘡 尿道留置カテーテル ストーマ			講義	
第4回	経管栄養 在宅中心静脈栄養法（HPN）			講義	
第5回	在宅酸素療法（HOT）			講義	
第6回	在宅看護の実際			講義	
第7回	終末期 エンドオブライフケア			講義	
第8回	グループワーク			GW	
第9回	グループワーク			GW	
第10回 第11回	グループワーク			GW	
第12回 第13回	演習 移動、移乗、清潔			演習	
第14回	グループワーク			GW	
第15回	振り返り まとめ			講義	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点（課題、レポート20点分含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎 医学書院					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	地域・在宅看護論	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	家族看護論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	川口 弥恵子	実務経験と その関連資格	助産師		
《科目全体のねらい・到達目標》 人間生活の基盤としての家族及び家族の人々の関係に関する的確な知識を理解し、家族の危機管理能力の向上や家族ケアの実際の場面での活用方法について学習する。 ①現代家族の多様化、個別化する現象について説明できる。④家族看護を支える理論と介入方法が説明できる。 ②家族看護の特徴と理念について説明できる。⑤家族看護の展開の方法について説明できる。 ③家族看護の特徴である家族機能、家族の抱える問題について説明できる。⑥家族看護学の実践について、事例に基づき必要な看護について説明できる。					
《事前学習内容》 授業時に配布するプリント、教科書の復習					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護をすることができる。 DP.3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材及び備考
第1回	授業の概要 現代家族の抱える社会課題と家族の多様性・複雑性 ジェノグラム／エコマップを書こう			講義	教科書・ 参考資料
第2回	家族とは何か ①家族をシステムと捉える（家族システム理論）			講義	教科書・ 参考資料
第3回	家族とは何か ②家族は発達するものと捉える（家族発達理論）			講義	教科書・ 参考資料
第4回	家族とは何か ③家族は家族の力で危機を乗り越える存在であると捉える（家族ストレス対処理論）			講義	教科書・ 参考資料
第5回	家族看護とは何か			講義	教科書・ 参考資料
第6回 第7回	家族のアセスメントをしてみよう①鈴木のアセスメントモデルを使って			講義・演習	教科書・ 参考資料
第8回 第9回	家族のアセスメントをしてみよう②鈴木のアセスメントモデルを使って			講義・演習	教科書・ 参考資料
第10回 第11回	家族のアセスメントをしてみよう③鈴木のアセスメントモデルを使って			講義・演習	教科書・ 参考資料
第12回 第13回	家族看護における看護師の役割と援助姿勢			講義・演習	教科書・ 参考資料
第14回 第15回	これからの時代に求められる家族看護とは：総括			講義・演習	教科書・ 参考資料
《成績評価の方法と基準》 毎回の授業の成果物に対する評価 10点×10回（1～5回は各10点、6回以降は2コマで各10点）					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	地域在宅看護論	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	地域診断	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	重松 由佳子	実務経験と その関連資格	保健師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
地域の動向を理解し、地域における看護活動を実践展開するための理論と方法を習得する。また、これからの地域社会における看護のあり方についても考える。（地域の疾病構造と疾病統計から健康レベルをアセスメントする。）					
《事前学習内容》					
教科書を事前に読んでおくこと。					
《D P との関連》					
DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP.3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	対象者の生活の場である地域を理解する意義			講義	教科書
第2回	地域を理解する視点			講義	教科書
第3回	地域で健康保持増進活動を行う社会資源			講義	教科書
第4回	地域で健康保持増進活動を行う専門職種			講義	教科書
第5回	健康保持・増進し、健康障害を予防する地域看護活動1			講義	教科書
第6回	健康保持・増進し、健康障害を予防する地域看護活動2			講義	教科書
第7回	地域看護診断の定義・目的			講義	教科書
第8回	地域看護診断に活用できるモデル			講義	教科書
第9回	地域の健康状態の指標			講義	教科書
第10回	地域診断演習			演習	教科書
第11回	地域診断演習			演習	教科書
第12回	地域診断演習			演習	教科書
第13回	地域診断演習			演習	教科書
第14回	地域診断演習(発表)			演習	教科書
第15回	まとめ			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点（課題、レポート30点分含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
地域で健康的な生活を行うためにそのようなことが関係しているのか各自が考えをもち、協力して学びあってください					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	成人看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間(8回)
科 目 名	成人看護学概論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	河口 喜代美	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
成人期にある対象を理解する。成人期の健康問題の特徴と健康に及ぼす影響を理解し、問題を解決するための基本的知識、及び看護の役割を理解する。					
《事前学習内容》					
生活行動がもたらす健康問題とその予防					
《D P との関連》					
DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培うことができる。					
DP.5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	1. 成人と生活 1) 対象の理解 2) 対象の生活			講義	教科書 資料
第2回	1. 生活と健康 2. ヘルスプロモーションと看護			講義	教科書 資料
第3回	1. 成人への看護アプローチの基本			講義	教科書 資料
第4回	1. 健康をおびやかす要因と看護			課題発表	教科書 資料
第5回	1. 看護におけるマネジメント 2. 看護実践における倫理的判断 3. 意思決定支援			講義	教科書 資料
第6回	1. 健康生活の急激な破綻と回復を促す看護 2. 慢性病とともに生きる人を支える看護			講義	教科書 資料
第7回	1. 障害がある人の生活とリハビリテーション 2. 人生の最期のときを支える看護			講義	教科書 資料
第8回	1. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 2. 新たな治療法、先端医療と看護 3. まとめ			講義 小テスト	教科書 資料
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 80点、課題点 20点、合計100点で評価					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
専門分野Ⅱ 成人看護学【1】 成人看護学総論					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	成人看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	成人看護学援助論Ⅰ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	柿原 真由美 河野 洋人	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 健康上の多様な問題を明確化して、対象および家族への援助を理解し、病態・治療に応じた看護過程を展開できる総合的な看護の視点を養う。					
《事前学習内容》 各疾患の病態生理・症状・検査・治療について学習する。					
《D P との関連》 DP. 2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を養う。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	腎・泌尿器疾患患者の看護			講義	PC
第2回	腎・泌尿器疾患患者の看護			講義	PC
第3回	腎・泌尿器疾患患者の看護			講義	PC
第4回	腎・泌尿器疾患患者の看護			講義	PC
第5回	アレルギー・膠原病患者の看護			講義	PC
第6回	呼吸器疾患患者の看護			講義	PC
第7回	呼吸器疾患患者の看護			講義	PC
第8回	血液・造血器疾患患者の看護			講義	パワーポイント
第9回	血液・造血器疾患患者の看護			講義	パワーポイント
第10回	内分泌・代謝疾患患者の看護			講義	パワーポイント
第11回	内分泌・代謝疾患患者の看護			講義	パワーポイント
第12回	消化器疾患患者の看護			講義	パワーポイント
第13回	消化器疾患患者の看護			講義	パワーポイント
第14回 第15回	消化器疾患患者の看護 ストーマケア 点滴、ドレーン等を留置している患者の寝衣交換 ドレーン類の挿入部の処置			演習	
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度 試験配分(柿原先生：50点 河野先生：50点)					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 専門分野Ⅱ 成人看護学【2】 呼吸器 成人看護学【4】 血液・造血器 成人看護学【5】 消化器 成人看護学【6】 内分泌・代謝 成人看護学【8】 腎・泌尿器 成人看護学【11】 アレルギー 膠原病 感染症					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	成人看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	成人看護学援助論Ⅱ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	桐原秀和 高口敦義 酒井美枝	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 健康上の多様な問題を明確化して、対象および家族への援助を理解し、病態・治療に応じた看護過程を展開できる総合的な看護の視点を養う。					
《事前学習内容》					
《D P との関連》 DP.1 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解 するコミュニケーション能力を養う。 DP.2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断 に基づいた看護を実践することができる。 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	脳神経 第1章 脳神経の看護を学ぶにあたって			講義	教科書
第2回	脳神経 第3章 症状とその病態生理			講義	教科書
第3回	脳神経 第6章 患者の看護			講義	教科書
第4回	脳神経 第6章 患者の看護 循環器 第1章 循環器の看護を学ぶにあたって			講義	教科書
第5回	循環器 第3章 症状とその病態生理			講義	教科書
第6回	循環器 第6章 患者の看護			講義	教科書
第7回	循環器 第6章 患者の看護			講義	教科書
第8回	脳外科 看護過程			グループワーク	教科書
第9回	循環器 看護過程			講義	教科書
第10回	女性生殖器 第1章			講義	教科書
第11回	女性生殖器 第6章			講義	教科書
第12回	女性生殖器 第6章			講義	教科書
第13回	運動器の看護を学ぶにあたって			講義	パワーポイント
第14回	第6章 患者の看護			講義	パワーポイント
第15回	第6章 患者の看護			講義	パワーポイント
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点（課題 20点含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 専門分野Ⅱ 成人看護学【3】 循環器 成人看護学【7】 脳・神経 成人看護学【9】 女性生殖器 成人看護学【10】 運動器					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	老年看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間（8 回）
科 目 名	老年看護学概論	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	河 口 喜代美	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 老年期にある対象の変化を知り、老年のための保健・医療・福祉サービスの課題を理解し、看護の役割を理解する。 ①老年期にある人々の発達課題を説明できる。ライフストーリーを聴き、高齢者の発達課題を理解し看護実践への活用ができる。 ②加齢に関する様々な理論を説明できる。 ③高齢者の生理的老化とメカニズムを説明できる。					
《事前学習内容》 高齢者が経験している社会変動（金融恐慌、戦争、戦後の混乱、高度経済成長など）や生きてきた時代背景を学習しておく。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	1. 老いるということ 老いを生きるということ 2. 老年看護のなりたち 3. 課題提示 ライフヒストリー			講義	教科書
第2回	1. 超高齢社会の統計的輪郭 保健医療福祉の動向 2. 高齢者医療の課題と重要性			講義	教科書
第3回	I. 高齢者の生理的特徴			講義	教科書
第4回	1. 対象の理解 1) 加齢に伴う心理、精神的機能の変化 2) 加齢に伴う社会的機能の変化			講義	教科書
第5回	1. 老年看護の役割 2. 老年看護における理論・概念の活用			講義	教科書
第6回	5. 老年症候群（定義と分類）			講義	教科書
第7回	5. 老年症候群 1) 急性・慢性疾患に付随する症候 2) ADL低下に合併する症候			講義	教科書
第8回	6. 高齢者の人権と倫理的問題 1) 高齢者虐待 2) 身体拘束 3) 権利擁護のための制度			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験80点（課題20点含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	老年看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	老年看護学援助論Ⅰ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	永江久訓	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 加齢に伴う機能低下に起因する徴候と健康障害に応じた看護を理解する。 ①高齢者の生活リズムにおいて意義、加齢に伴う変化・変調をとらえ、アセスメントを行うことができる。 ②高齢期において罹患しやすい疾患の看護の要点を説明できる。					
《事前学習内容》 高齢者の健康障害の特徴や治療時の看護を理解できるように教科書を基に事前学習する。					
《DP との関連》 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	高齢者のヘルスケアアセスメント			講義	PP
第2回	身体の高齢変化とアセスメント			講義	PP
第3回	日常生活を支える基本的活動			講義	PP
第4回	廃用症候群のアセスメントと看護			講義	PP
第5回	高齢者の排泄ケア			講義	PP
第6回	生活リズム			講義	PP
第7回	コミュニケーション			講義	PP
第8回	社会参加			講義	PP
第9回	身体疾患のある高齢者の看護			講義	PP
第10回	身体疾患のある高齢者の看護			講義	PP
第11回	身体疾患のある高齢者の看護			講義	PP
第12回	認知機能障害のある高齢者の看護			講義	PP
第13回	認知機能障害のある高齢者の看護			講義	PP
第14回	高齢者のフィジカルアセスメント			講義	PP
第15回	高齢者のフィジカルアセスメント			講義	PP
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点（課題20点含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 老年看護学 医学書院					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	老年看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	老年看護学援助論Ⅱ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	江川 陽子 富松 高司	実務経験と その関連資格	老人看護専門看護師 集中ケア認定看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 健康障害をもつ高齢者における看護過程の展開方法を理解する。 ①対象者の健康状態、日常生活への影響を明らかにするために主観的・客観的情報を整理・記載できる。 ②明らかになった複数の課題に対し、生命の危険性、本人の苦痛、健康の影響、生活行動に及ぼす影響から順位を考えナンバリングできる。					
《事前学習内容》 高齢者の健康障害の特徴や治療時の看護を理解できるように教科書を基に事前学習する。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.3 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる DP.5 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	老年看護病態・疾患論 第4章 A. 認知症(江川)			講義	講師作成資料
第2回	老年看護病態・疾患論 第4章 B. 精神・神経、C. 循環器系(富松)			講義	講師作成資料
第3回	老年看護病態・疾患論 第4章 D. 呼吸器系、E. 消化器系(富松)			講義	講師作成資料
第4回	老年看護病態・疾患論 第4章 F. 内分泌・代謝、G. 自己免疫系、H. 血液(富松)			講義	講師作成資料
第5回	老年看護病態・疾患論 第4章 I. 腎泌尿器、J. 運動器、K. 皮膚(富松)			講義	講師作成資料
第6回	老年看護病態・疾患論 第4章 L. 感覚器、M. 歯・口腔、N. 感染症(富松)			講義	講師作成資料
第7回	老年看護病態・疾患論 第5章 高齢者と薬(富松)			講義	講師作成資料
第8回	老年看護病態・疾患論 第6章 高齢者のリハビリテーション(富松)			講義	講師作成資料
第9回	老年看護学 第7章 治療を必要とする高齢者の看護(富松)			講義	講師作成資料
第10回	老年看護学 第10章 高齢者のリスクマネジメント①(富松)			講義	講師作成資料
第11回	老年看護学 第10章 高齢者のリスクマネジメント②(富松)			講義	講師作成資料
第12回	老年看護学 第9章 生活・療養の場における看護(江川) 老年看護病態・疾患論 終章 高齢者の在宅医療(江川)			講義	講師作成資料
第13回	老年看護病態・疾患論、老年看護学 エンドオブライフケア(江川)			講義	講師作成資料
第14回 第15回	老年看護学 付章 看護過程の展開(江川)			講義	講師作成資料
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点(課題20点含む)、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 1. 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 老年看護病態・疾患論 医学書院 老年看護学 青踏社					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	小児看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間(8回)
科 目 名	小児看護学概論	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	大町 福美	実務経験と その関連資格	助産師		
《科目全体のねらい・到達目標》 子どもと家族が主体となるケアの理念に基づき一貫して看護の対象となる人々の主観や関係性を共有し尊重することを基本とし、すべての健康レベルの子どもを対象としてその成熟課程を支える看護を学ぶ。 小児看護の役割と機能を理解する。					
《事前学習内容》					
《D P との関連》 DP.1看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる DP.2地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培うことができる。 DP.4健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.5保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。 DP.6探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	小児看護の対象 小児看護の目標 小児看護の変遷と課題が理解できる。			講義	テキスト 資料
第2回	小児看護の場と特徴 小児看護の諸統計が理解できる。			講義	テキスト 資料
第3回	子どもの人権 小児看護における理論が理解できる。小児看護学と倫理			講義	テキスト 資料
第4回	子どもの特性:成長発達			講義・演習	テキスト 資料
第5回	子どもの特性:身体機能の発達			講義・演習	テキスト 資料
第6回	子どもの特性:精神運動機能の発達			講義・演習	テキスト 資料
第7回	子どもの虐待と看護 子どもの事故			講義	テキスト 資料
第8回	家族の特徴とアセスメント			講義	テキスト 資料
《成績評価の方法と基準》 筆記試験 90点 課題10点 出席状況 受講態度					
《受験上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 小児看護学概論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学1〕 小児看護学各論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学2〕					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	小児看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	小児看護学援助論Ⅰ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	古賀 龍天 松浦 稔展 棚成 嘉文 坂西 信平 中川慎一郎	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 健康障害をもつ小児各期にある対象の特徴について学び、対象である小児のみならず、周囲の環境と関連させながら理解する。					
《事前学習内容》 事前にテキストを読む。 指定された課題学習を行う。					
《DPとの関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材及び備考
第1回	第1章 染色体異常、胎内環境により発症する先天異常と看護 第2章 新生児の看護が理解できる			講義	教科書
第2回	第3章 代謝性疾患			講義	教科書
第3回	第4章 内分泌疾患と看護			講義	教科書
第4回	第5章 免疫疾患、アレルギー性疾患 リウマチ性疾患と看護			講義	教科書
第5回	第6章 感染症と看護			講義	教科書
第6回	第7章 呼吸器疾患と看護			講義	教科書
第7回	第8章 循環器疾患と看護			講義	教科書
第8回	第9章 消化器疾患と看護			講義	教科書
第9回	第10章 血液、造血器疾患と看護			講義	教科書
第10回	第11章 悪性新生物と看護			講義	教科書
第11回	第12章 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護			講義	教科書
第12回	第13章 神経疾患と看護 心身症			講義	教科書
第13回	第14章 運動器疾患と看護 第15章 皮膚疾患と看護			講義	教科書
第14回	第16章 眼疾患と看護 第17章 耳鼻咽喉疾患と看護			講義	教科書
第15回	第18章 精神疾患と看護			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 小児看護学各論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学2〕					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	小児看護学	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	小児看護学援助論Ⅱ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	徳満絵理香 住吉陽子	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 小児期の成長発達・健康維持から生じる健康問題に対する看護の具体的方法を学び、小児看護の特徴を踏まえた看護過程を展開し、統合的な看護の視点を養う。					
《事前学習内容》 発達段階の理解 疾患に関する知識					
《D P と の 関 連》 DP. 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP. 2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培うことができる。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP. 5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供する					
授業の方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第1回	第1章 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 第7章 障害のある子どもと家族の看護			講義	
第2回	第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護			講義	
第3回	第3章 子どもにおける疾病の経過と看護			講義	
第4回	第4章 子どものアセスメント			講義・演習	
第5回	第5章 症状を示す子どもの看護①			講義・演習	
第6回	第5章 症状を示す子どもの看護①			講義・演習	
第7回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護①			講義・演習	
第8回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護② 遊びによる医療的説明（プレパレーション、ディストラクション）			講義・演習	
第9回 第10回 第11回 第12回 第13回	疾患を持った子どもの看護 代謝性疾患、内分泌疾患、免疫疾患、アレルギー性疾患 リウマチ性疾患、感染症、呼吸器疾患、循環器疾患 消化器疾患、血液、造血器疾患、悪性新生物、 消化器疾患、血液、造血器疾患、悪性新生物、 腎・泌尿器および生殖器疾患、神経疾患、 運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、精神疾患			講義	
第14回	事例による看護過程の展開			講義・演習	
第15回	事例による看護過程の展開			講義・演習	
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点（課題20点含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 小児看護学概論〔系看護 専門Ⅱ 小児看護学1〕 小児看護学各論〔系看護 専門Ⅱ 小児看護学2〕					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	母性看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間(8回)
科 目 名	母性看護学概論	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	大町福美	実務経験と その関連資格	助産師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
①母性看護を実践する上で生命を尊び、必要な諸理論「愛着形成・役割理論・家族の発達・リプロダクティブヘルス / ライツ・Sexuality・母性看護の生命倫理、母性看護の中心概念」について学習し説明できる。					
②人間の生と生殖の意義を理解し、生命の尊厳と生命倫理について考えを深めることができる。					
③母性保健の歴史的変遷・統計・法律について学習し母性保健の課題について考えることができる。					
①②③より母性看護における看護の役割と課題について自分なりの考えをまとめることができる。					
《事前学習内容》					
・教科書の関連領域・資料は事前に読んでおくこと。					
・女性の形態・機能(生殖生理)については理解し覚える。授業時に知識の確認テストをします。					
《DPとの関連》					
DP② 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP⑥ 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	母性とは何か:「母性」の概念について学ぶ①母性・父性・家族関係・発達課題、セクシュアリティについて述べることができる。 母性看護の中心概念である「女性中心の看護」「家族中心の看護」について			講義 課題レポート	教科書1、2 資料
第2回	母性とは何か:①「母性」の概念について学ぶ②ヘルスプロモーション、リプロダクティブヘルス/ライツ、母性看護の在り方 母性看護の対象、母としての発達「ルービン」「マーサー」ほか			講義	教科書1、2 資料
第3回	母性を取り巻く社会の変遷と現状:母性看護の歴史的変遷を知る。 歴史的な変遷を踏まえ、それが女性及び社会にどのような影響をもたらしたのか考える。			講義	教科書1、2 資料
第4回	母性保健の統計:母性保健の統計を読み、母性保健の現状をイメージし、今後の母性看護の在り方、課題を考える。 ①出生②合計特殊出生率③周産期死亡④死産⑤妊産婦死亡⑥婚姻・離婚			講義	教科書1、2 資料
第5回	母性保健の法律:①母子保健法②労働基準法③男女雇用機会均等法④育児・介護休業法⑤母体保護法⑥死産の届け出に関する規定⑦戸籍法 ほか・・・講義③④⑤を学び母性看護の課題と求められる取組についてレポート			講義 課題レポート	教科書1、2 資料
第6回	母性看護の対象の特徴を理解する:女性の身体的特徴①解剖学的特徴と生殖生理②生殖機能の特徴と変化からみた女性のライフサイクル(思春期・更年期)			課題 ポストテスト	教科書1、2 資料
第7回	人間の性と生殖の意義を理解する:人間の生と生殖の概念①女性と男性以外の性・性同一性障害(LGBT)・性分化疾患②社会的性同一性(ジェンダー)			講義	教科書1、2 資料
第8回	児童虐待と母子関係の課題:①児童虐待の現状と対応②母子及び父子関係の課題 母性看護学概論のまとめ:①母性看護学の動向②母性看護の役割と課題③倫理的問題			講義 課題レポート	教科書1、2 資料
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅰ】母性看護学概論(医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅱ】母性看護学各論(医学書院)					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	母性看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	母性看護学援助論Ⅰ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	村上 文洋	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
①母性各ライフステージのセクシュアリティの発達が説明できる。					
②母性各ライフステージの心理・社会的特徴を述べ各期の健康問題と支援方法を述べることができる。					
③女性生殖器疾患に関して病態・検査・治療予後について学び理解できる。					
④マタニティサイクルの異常と看護について学び、説明できる。					
《事前学習内容》					
・教科書の関連領域・資料は事前に読んでおくこと。					
・母性看護学概論で学んだ内容について復習をしておくこと。					
《DP との関連》					
DP.2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	女性生殖器解剖、月経周期			講義	
第2回	女性生殖器の診察・検査と治療・処置			講義	
第3回	女性生殖器の症状とその病態生理			講義	
第4回	月経異常 良性疾患			講義	
第5回	不妊症 悪性腫瘍			講義	
第6回	避妊 性犯罪・性暴力			講義	
第7回	女性生殖器の良性腫瘍、悪性腫瘍			講義	
第8回	性感染症 プレコンセプションケア			講義	
第9回	妊娠 遺伝相談			講義	
第10回	出生前診断 着床前遺伝的診断 発育の評価 母体の変化			講義	
第11回	分娩 産褥			講義	
第12回	妊娠の異常①			講義	
第13回	妊娠の異常②			講義	
第14回	妊娠の異常③			講義	
第15回	妊娠の異常④			講義	
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅰ】母性看護学概論（医学書院）					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅱ】母性看護学各論（医学書院）					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	母性看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間（15回）
科 目 名	母性看護学援助論Ⅱ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	本多 文	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 妊娠・分娩・産褥時の母子の生理的な変化について理解し、正常経過の観察、全経過を通じての包括的看護について理解する。また、看護過程を展開し、総合的な看護の視点を学ぶ。					
《事前学習内容》 ・母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰで学んだ内容については復習しておくこと。					
《DPとの関連》 DP.2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	子どもを産み育てること・不妊の看護			講義	
第2回	妊婦と胎児のアセスメント			講義	
第3回	妊婦と家族の看護			講義	
第4回	分娩期における看護			講義	
第5回	分娩期の看護の実際			講義	
第6回	新生児期における看護			講義	
第7回	産褥期における看護			講義	
第8回	異常のある産婦の看護			講義	
第9回	新生児の異常と看護			講義	
第10回	異常のある褥婦の看護 メンタルヘルスの問題をかかえる母親の支援			講義	
第11回	まとめ			講義・演習	
第12回 第13回	沐浴			講義・演習	
第14回 第15回	看護の展開			講義・GW	
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅰ】母性看護学概論（医学書院） 2. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅱ】母性看護学各論（医学書院）					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	精神看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間(8回)
科 目 名	精神看護学概論	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	藤岡 賢至	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 精神看護の基本的概念を理解し、人の健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、方法を学ぶ。 心の発達と健康について学び、精神看護の目的・対象の機能と役割について学ぶ。					
《事前学習内容》 ライフサイクル、成長発達段階					
《D P との関連》 DP. 1 地域に暮らす人々の健康的な暮らしを理解できる。 DP. 1 対象の身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用機材及び備考
第 1 回	導入・オリエンテーション 第 1 章 精神看護学で学ぶこと A. 精神看護とは			講義	教科書
第 2 回	B. 精神障害を持つ人の病いの体験と精神看護 第 1 章 精神看護で学ぶこと C. 「心のケア」と日本社会			講義	教科書
第 3 回	D. 精神看護の課題 第 2 章 精神保健の考え方 A. 精神の健康とは			講義	教科書
第 4 回	第 2 章 精神保健の考え方 B. 心身の健康に及ぼすストレスの影響 C. 心的外傷と回復			講義	教科書
第 5 回	D. 精神障害という考え方 第 7 章 社会の中の精神障害 A. 精神障害の治療と歴史			講義	教科書
第 6 回	第 7 章 社会の中の精神障害 B. 日本における精神医学・精神医療の流れ C. 精神障害と文化			講義	教科書
第 7 回	第 7 章 社会の中の精神障害 D. 精神障害と社会学 E. 精神障害と法制度			講義	教科書
第 8 回	第 7 章 社会の中の精神障害 F. 主な精神保健医療福祉対策とその動向 これまでの講義内容の振り返りとまとめ			講義	教科書
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	精神看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	精神看護学援助論Ⅰ	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	辻克郎 富松健太郎 江口 寛 辻丸 智子 西山幸歩	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・到達目標》 精神障害者の発達の特徴と主な疾患の原因・診断・治療について学ぶ。					
《事前学習内容》 ライフサイクル、成長発達段階					
《ＤＰとの関連》 DP. 1 地域に暮らす人々の健康的な暮らしを理解できる DP. 1 対象の身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	精神を病むことと生きること、精神症状論と状態像・さまざまな精神症状			講義	教科書
第 2 回	精神障害の診断と分類・診断と症状分類・統合失調症			講義、DVD鑑賞	教科書、DVD
第 3 回	気分〔感情〕障害〔双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群〕			講義、DVD鑑賞	教科書、DVD
第 4 回	神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害			講義	教科書
第 5 回	精神作用物質使用による精神および行動の障害			講義	教科書
第 6 回	認知症、睡眠障害など			講義、DVD鑑賞	教科書、DVD
第 7 回	精神科における治療			講義	教科書
第 8 回	精神保健福祉法及び精神科に関わる法律、制度について（主に、精神保健福祉法、総合支援法、医療観察法、障害者手帳、障害年金について）			講義	パワーポイント 資料
第 9 回	精神保健福祉法について 医療観察法について 総合支援法について 福祉サービスについて 社会資源について			講義	パワーポイント
第10回	こころの働きと構造について			講義	パワーポイント
第11回	主要な心理検査・心理療法について			講義	パワーポイント
第12回	精神科に関わる法制度について			講義	パワーポイント
第13回	国家試験問題講習			講義	プリント DVD
第14回 第15回	てんかん 国家試験問題講習			講義	教科書 プリント
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院					

2025 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	精神看護学	対象学年	2 年	授業時間数	30時間（15回）
科 目 名	精神看護学援助論Ⅱ	学 期	後 期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	永松 祐二 野母 武	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
・精神の健康問題を持つ対象とその家族の理解を深め、必要な援助を学ぶ。精神障害を持つ患者の看護過程を展開し、総合的な看護視点を養う。					
・患者と看護者関係の成立・発達・発展させるための方法を理解し、精神に障害をもつ患者の看護過程を展開し、統合的な看護の視点を養う。					
《事前学習内容》					
ライフサイクル、成長発達段階					
《DPとの関連》					
DP.1 地域に暮らす人々の健康的な暮らしを理解できる					
DP.1 対象の身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する					
DP.3 患者の能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い洞察と内省を繰り返し看護を実践する					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	(第8章)ケアの人間関係 ケアの前提を知り、ケアの原則・方法について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第2回	(第8章)ケアの人間関係 対人関係の基本的な考えを理解し、患者-看護師関係における感情体験について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第3回	(第9章)回復を支援する 回復の意味、リカバリーを促す環境・方法としてのグループ、回復のためのプログラムについて学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第4回	(第10章)地域におけるケアと支援 地域における生活支援の方法について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第5回	(第10章)地域におけるケアと支援 地域におけるケアの方法と実際、学校・職場におけるメンタルヘルスと精神看護について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第6回	(第11章)入院治療の意味 精神科を受診するということ、入院中の観察とアセスメント、退院に向けての支援について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第7回	(第12章)身体をケアする 精神科における身体ケア、看護ケアの実際について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第8回	(第12章)身体をケアする 精神科の治療に伴う身体ケア、身体合併症のアセスメント、終末期ケアについて学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第9回	(第13章)安全をまもる リスクマネジメントの考え方と方法を理解し、緊急事態(自殺・暴力・無断離院)の対策について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第10回	(第14章)医療の場におけるメンタルヘルスと看護 リエゾン精神看護とその役割、活動の実際について学習する。			講義	精神看護学② 精神看護の展開
第11回	・慢性期にある統合失調症患者の看護展開 長期入院患者の問題点を伝えイメージの上からも患者像が浮かぶようにする。			講義	作成資料
第12回	・看護計画のための情報整理 基本的データ、病前、入院前、現在の患者の状態について把握できるようにする。			講義	作成資料
第13回	・看護計画の実際 これからの患者の可能性について一緒に考え、アセスメントし看護計画立案ができるようにする。			講義	作成資料
第14回	・プロセスレコードとは 看護場面の再構成ができるよう学習する。			講義	作成資料
第15回	・プロセスレコードの記述 プロセスレコードの記述方法、自己評価と活用について学習する。			講義	作成資料
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	看護の統合と実践	対象学年	2 年	授業時間数	10時間(5回)
科 目 名	クリティカルケア (急性期)	学 期	後期	授業単位数	1 単位 (災害看護を含む)
担 当 教 員	富松 高司	実務経験と その関連資格	集中ケア認定看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》 健康状態の急激な変化（突発的な事故や重篤な疾病発症、病期の活動期、手術直後の急性期）などによって、クリティカルケアが必要とされる患者および家族の理解を深め、必要な看護実践を習得する。					
《事前学習内容》 解剖生理学、疾病各論、薬理学、患者・家族心理					
《D P との関連》 DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を養うことができる。 DP.4 健康段階を理解し、健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	クリティカルな患者の病態の理解と看護 呼吸機能障害、循環機能障害、腎機能障害			講義	講師作成資料
第 2 回	クリティカルな患者の病態の理解と看護 脳神経障害、消化機能障害、栄養代謝障害、多臓器機能障害			講義	講師作成資料
第 3 回	クリティカルケアに必要な看護技術 観察と全身症状のアセスメント、呼吸管理			講義	講師作成資料
第 4 回	クリティカルケアに必要な看護技術 体液・循環管理、栄養管理、鎮痛・鎮静管理			講義	講師作成資料
第 5 回	クリティカルケアに必要な看護技術 危篤状態にある患者・家族へのケア			講義	講師作成資料
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座 クリティカルケア看護学 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	看護の統合と実践	対象学年	2 年	授業時間数	20時間(10回)
科 目 名	災害看護	学 期	前期	授業単位数	1 単位 (クリティカルケアを含む)
担 当 教 員	村上 潤一郎	実務経験と その関連資格	災害派遣医療チーム・救急看護認定看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。 災害時に看護が果たす役割、災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。					
《事前学習内容》					
フィジカルアセスメント・心の健康・生活・ライフスタイル・集団・家族					
《D P との関連》					
DP. 1 地域に暮らす人々の健康的な暮らしを理解できる DP. 2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践できる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第 1 回	自己紹介、災害への意識調査、質疑応答 CSCATTTの説明、災害のサイクル など			講義	
第 2 回 第 3 回	災害医療、災害看護の基礎知識 災害現場に対するG.W① 災害現場で遭遇する疾患や症状 など			講義	
第 4 回 第 5 回	災害現場に対するG.W② 災害現場で遭遇する疾患への対応 DMAT隊員の活動紹介、災害時のメンタルヘルス など			講義	
第 6 回 第 7 回	トリアージ説明 トリアージ訓練、試験 トランシーバー体験 など			演習	
第 8 回 第 9 回	災害看護の展開（多数傷病者対応訓練）			演習	
第10回	地域の防災訓練見学 防災訓練の実際と災害地での看護の役割			大牟田市 防災訓練参加	体操服
《成績評価の方法と基準》					
トリアージ演習の評価、多数傷病者対応訓練の演習評価、終講試験による評価の合計点数を100点とする。					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	看護の統合と実践	対象学年	2 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	臨床補助技術における安全	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	富松高司 教務	実務経験と その関連資格	医療安全管理者 看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
医療システムの中の危険要因を知り、診療補助技術における事故防止のための知識・技術を習得できる					
安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる					
《事前学習内容》					
基礎看護学、基礎看護学技術					
《D P との関連》					
DP.2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践できる。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	序章 医療安全を学ぶことの大切さ			講義	講師作成資料
第2回	第1章 事故防止の考え方を学ぶ A 医療事故と看護業務 B 看護事故の構造			講義	講師作成資料
第3回	第1章 事故防止の考え方を学ぶ C看護事故防止 事例			講義	講師作成資料
第4回	授業内容・評価について 課題：①身近なヒヤリハット体験 ②新卒離職率（日本看護協会報告）と 医療事故の関係			講義	資料
第5回	1、医療事故をめぐる15年の変化 2、看護マネジメントと医療安全			講義	資料
第6回	安全文化の醸成 国・行政の取り組み			講義	資料
第7回	DVD「死亡退院」 患者が安全に医療を受ける文化「安全文化」について客観的に考える			講義	DVD
第8回	基本的行為と看護事故「与薬・注射」			講義	資料
第9回 第10回	基本的行為と看護事故「褥瘡」 アセスメント（褥瘡の予測）			講義・GW	資料
第11回	「ヒューマンエラー」			講義	資料
第12回	高齢患者と看護事故			講義	資料
第13回	高齢患者と看護事故 抑制と拘束			講義・GW	資料
第14回	感染予防・まとめ・発表			講義・GW	資料
第15回	「医療安全対策の国内外の潮流」 9 章			講義	資料
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 医療安全 医学書院					

2025 年度 授業計画（シラバス）

教 育 内 容	看護の統合と実践	対象学年	3 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	臨床看護の実践	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	前田 優子	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・到達目標》					
臨床に近い状況下で複数の患者への看護を通して、総合的な判断力や対応をする力を養う・看護技術を組み合わせ、複数患者の状態や状況にあった援助が実施できる。					
《事前学習内容》					
基礎看護学、基礎看護学技術					
《D P との関連》					
DP.2 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践できる					
授業の方法	内 容		方法	使用教材及び備考	
第1回	授業のねらい 臨地実習における学習について		講義	資料	
第2回	臨床判断に必要な知識・技術 生体検査と血液検査		講義	資料	
第3回	事例を基に臨床判断を考える 糖尿病		講義	資料	
第4回	事例を基に臨床判断を考える（グループディスカッション・発表）		講義・GW	資料	
第5回	事例を基に臨床判断を考える（グループディスカッション・発表）		講義・GW	資料	
第6回	事例を基に臨床判断を考える(肝硬変)		講義	VTR	
第7回	グループディスカッション・発表		講義・GW	資料	
第8回	グループディスカッション・発表		講義・GW	資料	
第9回	複数受け持ち（多重課題）看護に必要な知識・技術		講義	資料	
第10回	複数受け持ち看護 事例学習		講義	資料	
第11回	複数受け持ち看護 事例学習（グループディスカッション）		講義	資料	
第12回 第13回	複数受け持ち看護の実践		演習	資料	
第14回	発表：演習を通しての学びの共有		講義・演習	資料	
第15回	倫理的思考とリフレクション まとめ		講義	資料	
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点（演習参加状況含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
系統看護学講座 解剖生理学 メジカルフレンド社 はじめてのフィジカルアセスメント					

2025年度 授業シラバス

教 育 内 容	看護の統合と実践	対象学年	3 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	看護研究	学 期	通年	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	大町福美	実務経験と その関連資格	看護師、助産師		
《科目全体のねらい・到達目標》 ①看護研究を行う意義、方法、研究プロセスを述べることができる。 ②文献検索ができ、その活用方法を述べることができる。③看護研究における倫理的配慮の意義を述べることができる。 ④論文作成・・・論文の構成・記載時の注意点・考察の書き方をもとに論文作成ができる。 ⑤臨地実習で学んだ看護体験を客観的に振り返り、看護理論・文献を活用しながら自己の看護体験の効果と課題を明確にしてケーススタディとしてまとめ・発表ができる。					
《事前学習内容》 ・看護研究は3年間の総まとめとして位置づけられます。今まで学んだことを振り返っておいて下さい。自分の興味・関心のある領域・テーマを探しておいて下さい。					
《DPとの関連》 DP①②③④⑤⑥に準拠する。					
授業の 方法	内 容			方法	使用教材 及び備考
第1回	看護研究について講義OR、看護研究の種類と事例研究について			講義	教科書・資料
第2回	看護研究とは、看護研究とエビデンス、看護研究と理論			講義	教科書・資料
第3回	文献とは、文献検索、文献レビューについて			講義・演習	教科書・資料
第4回	文献レビュー、文献クリティーク			講義・演習	教科書・資料
第5回	看護研究における倫理的配慮			講義	教科書・資料
第6回	看護研究の種類とその特徴			講義	教科書・資料
第7回	事例研究の意義と進め方			講義	教科書・資料
第8回	論文作成・・・論文の構成・記載時の注意点・考察の書き方、P-P作成			講義	教科書・資料
第9回	ケーススタディ	論文作成		講義・ワーク	教科書・資料
第10回	ケーススタディ	論文作成		講義・ワーク	教科書・資料
第11回	ケーススタディ	P-Pの作成、論文の作成		講義・ワーク	
第12回	ケーススタディ	P-Pの作成、論文の作成		講義・ワーク	
第13回	ケーススタディ	ケーススタディ発表		発表会	
第14回	ケーススタディ	ケーススタディ発表、まとめ		発表会	
第15回	看護学会参加			課題レポート	
《成績評価の方法と基準》 1. ケーススタディ発表、ケースレポート 2. 終講テスト、課題点（10点）					
《受験上の注意》 ・看護研究を始めるにあたり、研究という新しいことを見つける、難しい事と捉えがちです。 ケーススタディは自分の行った看護を振り返り、文献を根拠にしながら客観的に意味付けを行うことで自分自身の看護実践能力の向上に繋がります。また、まとめのプロセスを通して対象理解、看護の役割の理解、看護観の形成になります。最終成果物として意義あるものになるように努力しましょう。 ・看護研究は、1年次に共通技術として学んだ「研究の基礎」を基に「文献のクリティーク」としてまとめたもの2年次には、看護の視点で「自由研究」をまとめたものをベースに、最終的に「ケーススタディ」にまとめます。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 1. 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 2. はじめて学ぶケーススタディ 編著：国澤尚子 総合医学社 3. ナーシンググラフィカ 看護研究 4. 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 森田夏美ほか 照林社 5. 看護研究 Step by Step 黒田裕子					